

札幌医科大学附属病院 北海道の医療を担う 専門医への道

札幌医科大学附属病院 専門研修プログラム

2022-2023

北海道公立大学法人 札幌医科大学附属病院
臨床研修・医師キャリア支援センター



目次

■札幌医科大学附属病院の概要	2
■専門医取得プログラム	
内科専門医〈消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓病専門医〉研修プログラム（消化器内科学講座）	6
内科専門医〈循環器専門医、腎臓専門医〉研修プログラム（循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座）	8
内科専門医〈呼吸器専門医〉研修プログラム（呼吸器・アレルギー内科学講座）	10
内科専門医〈消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓専門医、がん薬物療法専門医、血液専門医〉 研修プログラム（腫瘍内科学講座、血液内科学）	12
内科専門医〈神経内科専門医〉研修プログラム（神経内科学講座）	14
内科専門医〈リウマチ専門医〉研修プログラム（免疫・リウマチ内科学）	16
小児科専門医研修プログラム（小児科学講座）	18
精神科専門医、精神保健指定医研修プログラム（神経精神医学講座）	20
皮膚科専門医研修プログラム（皮膚科学講座）	22
放射線科専門医、放射線治療専門医研修プログラム（放射線医学講座）	24
放射線科専門医研修プログラム〈放射線診断専門医〉（放射線診断学）	26
外科専門医〈消化器外科専門医、乳腺専門医〉研修プログラム（消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座）	28
外科専門医〈心臓血管外科専門医〉研修プログラム（心臓血管外科学講座）	30
外科専門医〈呼吸器外科専門医〉研修プログラム（呼吸器外科学）	32
整形外科専門医研修プログラム（整形外科科学講座）	34
脳神経外科専門医研修プログラム（脳神経外科学講座）	36
泌尿器科専門医研修プログラム（泌尿器科学講座）	38
耳鼻咽喉科専門医研修プログラム（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座）	40
眼科専門医研修プログラム（眼科学講座）	42
産婦人科専門医研修プログラム（産婦人科学講座）	44
再生医療認定医、脳卒中専門医研修プログラム（フロンティア医学研究所 神経再生医療学部門）	46
麻酔科専門医研修プログラム（麻酔科学講座）	48
リハビリテーション科専門医研修プログラム（リハビリテーション医学講座）	50
形成外科専門医研修プログラム（形成外科学講座）	52
総合診療科専門医研修プログラム（総合診療医学講座）	54
臨床検査専門医研修プログラム（感染制御・臨床検査医学講座）	56
救急科専門医、集中治療専門医研修プログラム（救急医学講座）	58
口腔外科専門医研修プログラム（口腔外科学講座）	60
病理専門医、死体解剖資格研修プログラム（病理学第一講座、病理学第二講座、病理診断学）	62
臨床遺伝専門医研修プログラム（遺伝医学）	64

病院データ

住所	〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目
URL	http://web.sapmed.ac.jp/hospital/
連絡先(窓口)	臨床研修・医師キャリア支援センター 011-688-9486 (直通) kenshu@sapmed.ac.jp
病床数	932床
専門研修指導医数	242人
臨床研修指導医数	169人
外来患者数	1,468人/日※令和2年度(2020年度)実績
入院患者数	548人/日※令和2年度(2020年度)実績
給与(月額)	35万円



専門研修プログラム

内科 内科専門研修プログラム

基幹施設は幅広い内科領域の疾患において高度な専門性と高い指導実績を持つ大学病院であり、また、連携施設は北海道全域で地域医療を担っており、症例・指導医・施設という全ての教育資源が潤沢な環境で充実した研修が受けられます。

〔連携施設〕
【病院】函館五稜郭病院／函館赤十字病院／市立函館病院／斗南病院／札幌南一条病院／N T T東日本札幌病院／J R札幌病院／札幌厚生病院／札幌循環器病院／天使病院／札幌禎心会病院／J C H O札幌北辰病院／東札幌病院／札幌清田病院／札幌共立五輪橋病院／札幌しらべ台病院／札幌同交会病院／慈啓会病院／手稲溪仁会病院／恵佑会第2病院／札幌徳洲会病院／江別市立病院／北海道中央労災病院せき損センター／市立千歳市民病院／国立病院機構北海道がんセンター／済生会小樽病院／小樽市立病院／小樽掖済会病院／栗山赤十字病院／砂川市立病院／滝川市立病院／製鉄記念室蘭病院／市立室蘭総合病院／総合病院伊達赤十字病院／王子総合病院／苫小牧市立病院／旭川赤十字病院／留萌市立病院／北見赤十字病院／帯広厚生病院／帯広協会病院／帯広第一病院／北斗病院／足寄町国民健康保険病院／市立釧路総合病院／釧路赤十字病院／国立循環器病研究センター／天理よろづ相談所病院／神戸市立西神戸医療センター
【特別連携等】北海道立江差病院／町立長沼病院

小児科 小児科専門研修プログラム

大都市・札幌にある大学を基幹施設とし、北海道各地にある連携施設での研修を行うことで、小児でよく診られる疾患から希少疾患まで幅広く経験することができます。

〔連携施設〕
【病院】市立函館病院／国立病院機構北海道医療センター／N T T東日本札幌病院／J C H O札幌北辰病院／勤医協札幌病院／北海道立子ども総合医療・療育センター／岩見沢市立総合病院／砂川市立病院／製鉄記念室蘭病院／苫小牧市立病院／市立釧路総合病院
【特別連携等】浦河赤十字病院

皮膚科 皮膚科研修プログラム

大学病院では、診療に関する基礎から専門的な知識及び手術などの技術的スキルを取得し、学会発表や論文作成、臨床研究の指導を受けます。各研修施設では経験豊富な指導医のもと、実際の症例を多数経験することでスキルアップを目指します。

〔連携施設〕
【病院】札幌厚生病院／手稲溪仁会病院／国立病院機構北海道医療センター／J C H O北海道病院／N T T東日本札幌病院／砂川市立病院
【特別連携等】市立三笠総合病院

精神科 精神科専門研修プログラム

基幹病院となる当科では、幅の広い疾患群に対応し、院内の診療連携、及び地域連携にも積極的に取り組んでいます。また、指導医のもと一例一例実践し、各種精神療法、薬物療法などの治療法や、医療倫理・精神科関連法規を実践を通して習得することができます。

〔連携施設〕
【大学病院】杏林大学医学部附属病院／九州大学病院／福岡大学病院
【病院】北海道立江差病院／江別市立病院／江別すずらん病院／北仁会旭山病院／五稜会病院／大蔵会札幌佐藤病院／さっぽろ悠心の郷ときわ病院／積信会長野病院／心優会中江病院／盟友会島松病院／資生会千歳病院／北仁会石橋病院／砂川市立病院／博友会平岸病院／博友会北の峰病院／北見赤十字病院／帯広厚生病院／博仁会大江病院／国立病院機構小倉医療センター／国立病院機構九州医療センター／福岡県立精神医療センター太宰府病院
【診療所】ほっとステーション大通公園メンタルクリニック／北仁会幹メンタルクリニック

その先の、道へ。北海道 Hokkaido. Expanding Horizons.

出典元：北海道専門研修ガイドブック2022、北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課臨床研修係、令和4年3月発行

専門研修プログラム

外科 外科専門研修プログラム

108名の指導医のもと、年間約15,000例の手術が行われており、十分な症例を経験することができます。また、将来のキャリアパスを見据えた多彩なコースを用意、サブスペシャリティ領域に特化した研修や、大学院への進学など希望に応じた研修が可能です。

〔連携施設〕
【病院】市立函館病院／函館五稜郭病院／函館協会病院／J R札幌病院／札幌いしやま病院／札幌里塚病院／鳩仁会札幌中央病院／札幌徳洲会病院／札幌東徳洲会病院／市立札幌病院／国立病院機構北海道がんセンター／サンブラザ新札幌循環器病院／手稲溪仁会病院／東札幌病院／北海道大野記念病院／北海道立子ども総合医療・療育センター／勤医協中央病院／土田病院／札幌禎心会病院／札幌道都病院／済生会小樽病院／小樽掖済会病院／小樽市立病院／くにもと病院／あかびら市立病院／砂川市立病院／滝川市立病院／市立室蘭総合病院／新ひだか町立静内病院／北海道立北見病院／広域紋別病院／国立病院機構帯広病院／釧路孝仁会記念病院／市立根室病院／社会医療法人友愛会友愛医療センター
【診療所】札幌ことに乳腺クリニック／札幌心臓血管クリニック／苫小牧消化器外科

整形外科 整形外科専門研修プログラム

最高レベルの運動器診療と先端的研究成果の発信をモットーに掲げる当科は、整形外科全領域にわたる研究・教育・診療体制が整備され、個々の能力を最大限に引き出す研修を可能とします。

〔連携施設〕
【病院】函館五稜郭病院／北海道立江差病院／市立千歳市民病院／北海道立子ども総合医療・療育センター／J R札幌病院／札幌徳洲会病院／羊ヶ丘病院／済生会小樽病院／北海道中央労災病院／砂川市立病院／滝川市立病院／市立室蘭総合病院／浦河赤十字病院／旭川厚生病院／道北勤医協一条通病院／留萌市立病院／帯広協会病院／釧路赤十字病院／浦添総合病院／J C H O大阪病院／行岡病院

産婦人科 産婦人科プログラム

「産科周産期」「婦人科」「生殖・内分泌」「女性のヘルスケア」4分野のバランスのとれた研修。良性・悪性含めた豊富な症例を各種専門医・指導医の下で早期より積極的に手術に参加できます。子育てしながらも働きやすい環境を提供、自由度の高い勤務体制をとることが可能です。また、高度先進医療も行っていきます。

〔連携施設〕
【病院】市立函館病院／函館五稜郭病院／N T T東日本札幌病院／J R札幌病院／斗南病院／札幌東豊病院／札幌白石産科婦人科病院／時計台記念病院／小樽協会病院／岩見沢市立総合病院／日鋼記念病院／製鉄記念室蘭病院／市立旭川病院／北見赤十字病院／帯広協会病院／市立釧路総合病院／町立中標津病院／町立別海病院

眼科 眼科専門研修プログラム

眼科における全ての分野に専門家を有し、偏りのない研修を行うことができます。また、基幹施設、連携施設において十分な外来症例、手術件数を経験でき、到達目標を上回ることが可能。研修終了時には基本的疾患の治療に関して独り立ちすることが可能となった研修になっています。

〔連携施設〕
【病院】N T T東日本札幌病院／江別市立病院／晴生会さっぽろ南病院／札幌東徳洲会病院／市立千歳市民病院／天使病院／中村記念病院／J R札幌病院／小樽市立病院／岩見沢市立総合病院／市立室蘭総合病院／総合病院伊達赤十字病院／苫小牧市立病院
【特別連携等】市立函館病院／深川市立病院／浦河赤十字病院／帯広厚生病院

耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科専門研修プログラム

偏りなく幅広い耳鼻咽喉科診療の経験を積むことができ、基幹施設および連携施設において充実した研修を行うことができます。当科のプログラムは、必要十分な症例数を確保し、耳鼻咽喉科専門医に求められる臨床スキルを高いレベルで身につけることができるよう配慮されています。

〔連携施設〕
【大学病院】関西医科大学附属病院／名古屋大学医学部附属病院
【病院】斗南病院／K K R札幌医療センター／J R札幌病院／北海道立子ども総合医療・療育センター／札幌禎心会病院／恵佑会札幌病院／市立千歳市民病院／厚別耳鼻咽喉科病院／函館五稜郭病院／帯広厚生病院

泌尿器科 泌尿器科専門研修プログラム

当科のプログラムは、当院（基幹施設）と下記の研修連携施設から構成されています。泌尿器科専門医に必要な知識や技能の修得と同時に、地域医療との連携や他の専門医への紹介・転送の判断も的確に行える能力を身につけることができるよう配慮しています。

〔連携施設〕
【病院】J C H O北海道病院／N T T東日本札幌病院／北海道立子ども総合医療・療育センター／函館五稜郭病院／倶知安厚生病院／済生会小樽病院／砂川市立病院／滝川市立病院／市立室蘭総合病院／製鉄記念室蘭病院／王子総合病院／旭川赤十字病院／帯広協会病院／釧路赤十字病院
【特別連携等】函館協会病院／北海道立江差病院／国立病院機構北海道医療センター

その先の、道へ。北海道 Hokkaido. Expanding Horizons.

出典元：北海道専門研修ガイドブック2022、北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課臨床研修係、令和4年3月発行

専門研修プログラム

脳神経外科	脳神経外科専門研修プログラム
	第一に全身管理能力および迅速正確な判断能力を研修を通じて身につけ、第二に治療困難な脳腫瘍に対する覚醒手術などを経験し、専門医取得に必要な各疾患を実際に診療することができるローテーションを組み、多様な研修先での実地研修を行います。
〔連携施設〕 【大学病院】 京都大学医学部附属病院 【病院】 市立函館病院／函館新都市病院／市立札幌病院／新さっぽろ脳神経外科病院／札幌白石記念病院／札幌宮の沢脳神経外科病院／北海道立子ども総合医療・療育センター／K K R札幌医療センター／札幌美しが丘脳神経外科病院／砂川市立病院／市立室蘭総合病院／王子総合病院／旭川脳神経外科循環器内科病院／帯広厚生病院／市立釧路総合病院／釧路孝仁会記念病院／国立循環器病研究センター 【特別連携等】 札幌禎心会病院／北海道脳神経外科記念病院／千歳豊友会病院／網走の丘総合病院	

放射線科	放射線科専門研修プログラム
	当科を研修基幹施設として、7つの連携施設を研修連携施設として加えた専門研修施設群を統括するプログラムです。各専門研修施設では、研修基幹施設との連携を保ちつつ、病院の特色に応じた様々な症例の画像診断・放射線治療・I V R治療を勉強できます。
〔連携施設〕 【大学病院】 日本大学医学部附属板橋病院 【病院】 K K R札幌医療センター／市立札幌病院／手稲溪仁会病院／札幌禎心会病院／函館五稜郭病院／市立室蘭総合病院	

麻酔科	麻酔科専門研修プログラム
	当科を基幹施設として、道内28の教育関連施設などで周術期（手術前～術後）の管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療の領域において、安全で質の高い医療を提供できる専門医を目指します。
〔連携施設〕 【大学病院】 弘前大学医学部附属病院／秋田大学医学部附属病院／福島県立医科大学附属病院／山形大学医学部附属病院 【病院】 市立函館病院／函館新都市病院／N T T東日本札幌病院／J R札幌病院／札幌東徳洲会病院／江別市立病院／中村記念病院／北海道立子ども総合医療・療育センター／札幌南三条病院／国立病院機構北海道医療センター／羊ヶ丘病院／我汝会えにわ病院／北海道循環器病院／市立千歳市民病院／小樽市立病院／俱知安厚生病院／岩見沢市立総合病院／滝川市立病院／深川市立病院／日鋼記念病院／市立室蘭総合病院／苫小牧市立病院／王子総合病院／旭川赤十字病院／市立旭川病院／北見赤十字病院／北海道立北見病院／帯広厚生病院／帯広協会病院／市立釧路総合病院	

病理	病理専門研修プログラム
	基礎実験病理から外科病理診断まで幅の広い「病理学」を経験、修練することができ、多様な病理医と接しながら、広い視野から「病理医」としての生き方を選択することが可能です。
〔連携施設〕 【大学病院】 防衛医科大学校病院／東京医科大学八王子医療センター 【病院】 函館五稜郭病院／国立病院機構函館病院／函館市医師会病院／N T T東日本札幌病院／勤医協中央病院／J R札幌病院／恵み野病院／札幌しらかば台病院／J C H O札幌北辰病院／J C H O北海道病院／北海道立子ども総合医療・療育センター／天使病院北海道大野記念病院／札幌徳洲会病院／札幌道都病院／新札幌循環器病院／慈恵会病院／東札幌病院／札幌南一条病院／札幌南三条病院／札幌清田病院／イムス札幌消化器中央総合病院／札幌同交会病院／自衛隊札幌病院／小樽市立病院／小樽協会病院／小樽掖済会病院／済生会小樽病院／北海道中央労災病院／砂川市立病院／市立室蘭総合病院／総合病院伊達赤十字病院／旭川赤十字病院／留萌市立病院／帯広厚生病院／釧路赤十字病院／市立釧路総合病院／がん研究会有明病院	

臨床検査科	臨床検査専門研修プログラム
	臨床検査の基礎医学的背景、方法論、臨床的意義を十分に理解し、それを元に医師をはじめ他のメディカルスタッフと協力して適正な医療の実践に貢献することになります。専門研修の中で、地域の臨床検査のレベルを向上させて地域医療に貢献するとともに、一人でもやりきる力を身につけることができます。
〔連携施設〕 【大学病院】 旭川医科大学病院	

救急科	救急科専門研修プログラム
	当プログラムは北海道唯一の高度救命救急センターを基幹とし、北海道主要都市と関東と沖縄の救命救急センターや札幌市内のE R型救急病院と連携を組んでおり、多様な研修が可能です。3年間のプログラムで1人前の救急医を育てます。
〔連携施設〕 【大学病院】 防衛医科大学校病院 【病院】 市立函館病院／手稲溪仁会病院／市立札幌病院／勤医協中央病院／札幌徳洲会病院／札幌東徳洲会病院／旭川赤十字病院／広域紋別病院／北見赤十字病院／帯広厚生病院／市立釧路総合病院／国立病院機構災害医療センター／沖縄県立中部病院	

その先の、道へ。北海道 Hokkaido. Expanding Horizons.

出典元：北海道専門研修ガイドブック2022、北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課臨床研修係、令和4年3月発行

専門研修プログラム

形成外科	形成外科専門研修プログラム
	基幹施設と連携施設の病院群で指導医のもとに研修が行なわれます。専門研修プログラムでは外傷、先天異常、腫瘍、瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド、難治性潰瘍、炎症・変性疾患などについて研修することができます。
〔連携施設〕 【大学病院】 浜松医科大学病院 【病院】 函館五稜郭病院／国立病院機構北海道医療センター／小樽市立病院／砂川市立病院／聖路加国際病院	

リハビリテーション科	リハビリテーション科専門研修プログラム
	北海道内の地域に根差したリハビリテーション医療のネットワークを持ち、急性期から生活期まで、また、小児から高齢者まで、幅広く研修を行えます。さらに、中核都市にある回復期リハビリテーション病棟では、在宅・社会復帰に向けて取り組む医療を学びます。
〔連携施設〕 【病院】 道南勤医協函館後北病院／北海道立子ども総合医療・療育センター／中村記念南病院／愛全病院／新さっぽろ脳神経外科病院／札幌仁会リハビリテーション病院／苫小牧東病院／森山メモリアル病院 【関連施設】 函館協会病院／札幌西門山病院／勤医協札幌病院／済生会小樽病院	

総合診療科	総合診療専門研修プログラム
	専門医教育課程において柔軟な施設研修が可能です。一つのプログラム内で、僻地から都市部まで、総合診療医の多様な在り様を経験し、その中で学習者にあった総合診療医としてのキャリア構築につなげることを目標としています。
〔連携施設〕 【病院】 道南勤医協函館後北病院／松前町立松前病院／北海道立江差病院／せたな町立国保病院／札幌徳洲会病院／勤医協中央病院／勤医協札幌病院／手稲溪仁会病院／東苗穂病院／J C H O札幌北辰病院／江別市立病院／市立千歳市民病院／砂川市立病院／総合病院伊達赤十字病院／国立病院機構旭川医療センター／名寄市立総合病院／幌加内国民健康保険病院／富良野協会病院／留萌市立病院／オホーツク勤医協北見病院／公立芽室病院／市立釧路総合病院／町立厚岸病院／町立別海病院 【診療所】 手稲家庭医療クリニック／合田内科小児科医院／喜茂別町立クリニック／三意会ホームケアクリニックあづま／黒松内町国保くろまつないブナの森診療所	

院長から

幾度も個人の岐路・選択があった。都度、強い根拠で選択はしていない。が心掛けたことがある。目先の成果・効率は選択基準としないこと。一つ先を「ぼんやり」決めること。「あずまいし」毎日を送ること。当然、ベストの選択はしていない。幸い、日々飽きずに送れた。大学附属病院、実に人が多い。「ロールモデル・反面教師」も潤沢だ。「コンシェルジュ機能」に始まり、同輩先輩との論議と余暇、学生・後輩への「屋根瓦」教室、国内外留学と博士課程研究・立案、一般疾患から世界初の経験まで、毎日飽きない。何より「型：守破離（しゅはり）」がある。どの年代からでも参加可能、門戸を叩いてみて欲しい。



院長 土橋 和文

専攻医から

私は岩手医科大学を卒業後、1年目は北海道共済組合連合会斗南病院、2年目は札幌医科大学附属病院で初期研修を行いました。現在は神経精神科に入局し、大学病院で後期研修を行っております。精神科は病棟・外来患者さんだけでなく、リエゾン・コンサルテーションで他科の患者さんを診る機会も非常に多いです。そのため、総合病院である大学病院は、リエゾンの機会も多く、幅広い研修が行えます。もちろん、精神保健指定医、専門医になるための十分な症例も集まり、手厚い指導も頂けます。大学病院は自身が成長できる十全十美の病院といえるでしょう。



専攻医 大江 開

臨床研修・医師キャリア支援センター長から

札幌医科大学附属病院の初期および後期（専門医制度対応）臨床研修は、「臨床研修・医師キャリア支援センター」と「各診療科・講座」が強力に連携した研修プログラムで運営されています。研修プログラムは柔軟に構成されており、各専攻医の希望を強く反映させながら専門医を目指した研鑽を積むことができます。大学病院である我々の指導体制はあらゆる領域で充実し先進的です。皆様の参加をお待ちしております。



臨床研修・医師キャリア支援センター長 辻 喜久

私は札幌医科大学を卒業後、1年目は市立室蘭総合病院、2年目は大学病院での初期研修を経て現在は札幌医科大学眼科に入局し後期研修を行っています。当科では1年目から白内障を中心に手術を積極的に行っており、早いうちから豊富な症例数を経験できます。また、網膜硝子体・緑内障などの手術・外来診療にも参加でき、専門の上級医の指導を手厚く受けることができます。充実した研修の中で、日々成長を感じています。



専攻医 根岸 美紗希

その先の、道へ。北海道 Hokkaido. Expanding Horizons.

出典元：北海道専門研修ガイドブック2022、北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課臨床研修係、令和4年3月発行

内科専門医 (消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、 肝臓病専門医) 研修プログラム

▶消化器内科研修プログラムの概要

消化器内科学講座(旧:第一内科学講座)では、消化器病(消化管・肝胆膵)を専門として内科全般のマネジメントができる医師の育成を目標としています。

初期研修終了後、卒後3~5年目の3年間は札幌医科大学附属病院および道内外の関連教育 病院での研修を行い、基本的臨床能力(プライマリケア能力)の向上と、消化器領域の基本的

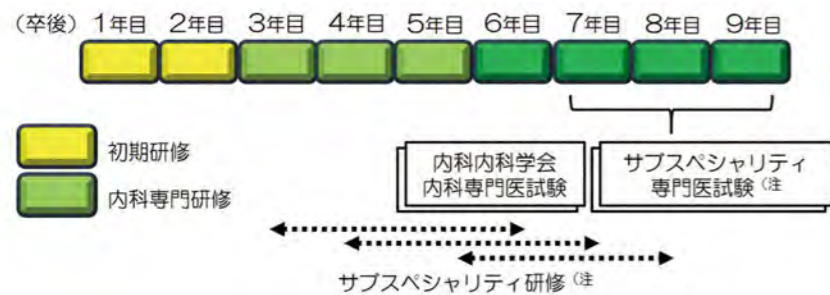
な知識・技術の習得を目指すとともに、患者中心のチーム医療における主体性と協調性を涵養します。2021年4月からは天理よろづ相談所病院(奈良県)、神戸市立西神戸医療センター(兵庫県)との連携研修が開始となり、専攻医研修の一環として、北海道外の専門施設で研修を行うことができるようになりました。

当科の研修プログラムでは、特徴の

異なる様々な施設での研修を通して、消化器病学、消化器内視鏡学、肝臓病学、がん薬物療法学をバランスよく学ぶことができます。

最短で卒後6年での内科専門医取得が可能であり、また並行して消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓専門医などのサブスペシャリティ領域の専門医資格の取得を目指します。

注) サブスペシャリティ研修の開始時期は各専攻医の希望に沿って決定しており、その結果、専門医試験受験可能となる時期も異なります。



▶消化器内科研修と地域医療への貢献

消化器内科学講座の関連施設は札幌市内はもちろん、道内各地に数多く存在しています(主な施設は右図)。各施設とも地域における基幹病院であり、専攻医はCommon diseaseから専門性の高い疾患まで、経験豊富な指導医のもとで数多くの症例を経験することができます。消化管出血などの緊急内視鏡や重症患者の全身管理などを含めて、消化器内科医としての基礎となる幅広い知識と技術を身につけます。各関連病院では年次の近い先輩・後輩と

切磋琢磨し、また上級医と共に研修医の指導も行うことで、さらなる成長が期待されます。

各地域関連施設では、他の診療科と連携しながら、消化器疾患のみならずCommon diseaseを含めた内科全般のマネジメントを行い、地域の医療に貢献します。関連施設での研修中も、大学病院の指導医と治療方針を議論しながら、各地域で質の高い医療を提供できるように努めています。



▶専門研修後のキャリア形成 ~世界に通じる仕事を目指して~

大学院は、最短で卒後2年目から入学可能であり、市内および近郊の関連病院とも連携して、卒後臨床研修プログラムの中でも学位を取得することが可能です。また大学院に進学しない場合も、研究生として在籍(卒後3年目以降で6年間)しながら臨床研究に取り組むことで医学博士の取得が可能です。

臨床および基礎研究を通して、Research mindを持って医学の発展に貢献できる人材の育成を行っています。当院は全国で2施設目となる『炎症性腸疾患に関する難病診療分野別拠点病院』に指定されており、全道各地から紹介いただいた、診断・治療に難渋する数多くの患者さんを診療しています。また、広大な北海道の医療を担う必要性から、自宅近くで専門的な診療を受けることが難しい患者さんのために、当講座では遠隔連携診療に取り組んでいます。当講座が参加する数多くの国際

共同治験や多施設共同研究への参加を通して最新の治療を経験することができ、また基礎研究の手法を用いながら、患者さん一人ひとりに適した治療法を追求することで、Physician-Scientist(臨床家であり、研究者であること)の育成を目指しています。

臨床および基礎研究においてさらに経験を積みたいと希望された場合には、国内外の専門施設への留学を積極的に支援しています。それぞれの希望にあわせて、数か月の短期研修から年単位での留学まで様々ですが、これまで国内では国立がん研究センター中央・東病院、愛知県がんセンター中央病院、静岡がんセンター、佐久総合病院、仙台市医療センター、栃木県立がんセンター、手稲溪仁会病院、福岡大学筑紫病院、札幌恵佑会第二病院、天理よろづ相談所病院、海外ではDana-Farber Cancer Institute、John Hopkins Oncology Center、University

of Pennsylvania、University of North Carolinaなどへの研修・留学実績があります。



主な国内留学先



主な海外留学先

▶教育機関として大切にしていること ~次世代のリーダーを育成する

当講座は教育機関として『人を育てること』を大切にしています。

知識や技術だけではなく、医療チームの中で求められる思考力・判断力・行動力・協調性を養い、医療人としての礎を築きます。消化器内科医を志すみなさん一人ひとりが、目標とする医師像を実現できるよう、指導医一同、全力でバックアップいたします。

消化器内科学講座は、北海道から世界に羽ばたくあなたの研修をお手伝いいたします。



内科専門医（循環器専門医、腎臓専門医） 研修プログラム

私たちは「本物のgeneral cardiologist」を育成します

▶ 超高齢化社会に求められる循環器内科医とは？

日本は現在急速な高齢化が進んでいます。2050年までには人口は1億人を割り、約40%が65歳以上の高齢者になると推計されています。カテーテル治療を中心とした循環器急性期治療の進歩の一方で、あらゆる心疾患の終末像である心不全患者は増加の一途をたどり、「心不全パンデミック」時代の到来が危惧されています。

多くの心疾患の原因は、肥満症・高

血圧・糖尿病・脂質異常・動脈硬化です。高齢者はこれらのリスク因子に加え、慢性腎臓病などの併存疾患も多く、治療を困難なものにしています。

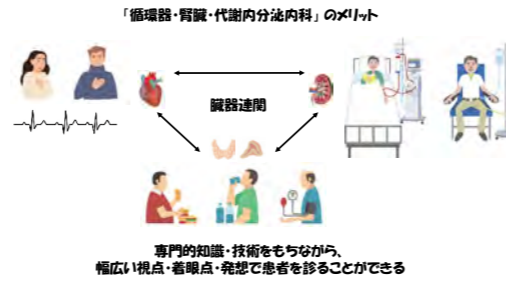
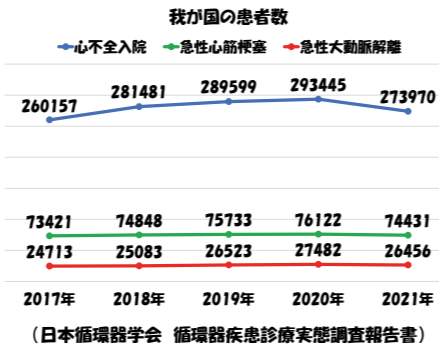
このような背景から、リスク因子の適切な管理による予防から終末像である心不全の治療まで、トータルに患者さんを診ることのできる「general cardiologist」の存在が今後ますます求められます。

▶ 当講座の研修プログラムの特徴

General cardiologistであるには、多くの心疾患のリスク因子である「生活習慣病」への深い知識と診療経験が必要です。また「臓器連関」、特に心-腎連関を理解することは、腎臓病が併存することの多い循環器疾患の病態把握に欠かせません。当講座はこれら密接に関連する疾患群を体系的に研修できる特徴があります。

大学病院では最先端技術を用いた心

筋症や肺高血圧症の診断・治療、移植適応のある重症心不全の管理、カテーテルによる弁膜症や不整脈治療なども積極的に行なっています。関連病院での研修もあわせてcommon diseaseから希少疾患まで幅広く研修が可能であり、最短で内科専門医、循環器専門医を取得可能です。循環器専門医取得後は、希望に応じてさらにサブスペシャリティの専門医取得を目指します。



モデルコース（最短での循環器専門医取得まで）

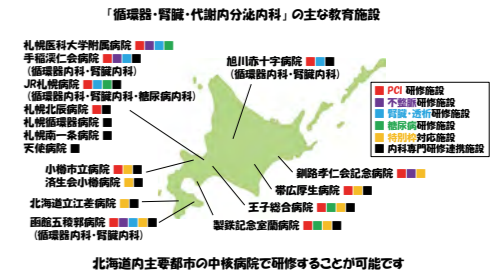
年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9
研修内容	初期研修	大学病院	関連病院	大学病院	大学病院	大学病院	大学病院	大学病院	大学病院
試験						内科専門医試験			
研修内容			内科専門医研修 (内科J-OSLER)						
研修内容				循環器領域研修 (循環器J-OSLER)					
試験									循環器専門医試験

当科に所属する専門医（青字はサブスペシャリティ領域）
 循環器専門医、腎臓専門医、糖尿病専門医、老年病専門医、
 不整脈専門医、心血管インターベンション専門医、透析専門医、超音波専門医、
 核医学専門医、救急科専門医、高血圧専門医、内分泌代謝科専門医、など

▶ 症例豊富な関連病院での研修システム

関連病院では、common diseaseを多く研修します。特に、急性心筋梗塞の患者さんを緊急カテーテル治療で救命することは、循環器内科医の醍醐味の一つです。当講座の関連病院はすべて地域の基幹病院であるため、カテーテル治療も含めて十分な症例を豊富な指導医のもとで経験することが出来ま

す。また、腎臓内科が独立している関連病院では、ローテーションにて多くの腎疾患や透析管理などを集中的に研修することも可能です。関連病院はどれも初期研修医が多い病院であり、先輩を指導することで自分も成長することができます。



▶ 国内屈指の専門施設での臨床留学

当講座は国内屈指の専門施設との連携も強く、これらの施設に国内留学が可能です。各施設の研修プログラムに沿って、2-3年の期間で腰を据えて循環器のサブスペシャリティを学ぶことができます。さらに国立循環器病研究センターは札幌医科大学内科専門医研修プログラムの連携施設でもありま

す。卒業4年目までに内科専門医の受験資格に必要な循環器領域以外の症例を十分経験した希望者は、5年目から同院の心臓血管内科レジデント研修（3年間）も可能です。最先端の施設で循環器研修をしながら、最短で内科専門医・循環器専門医を取得できます。

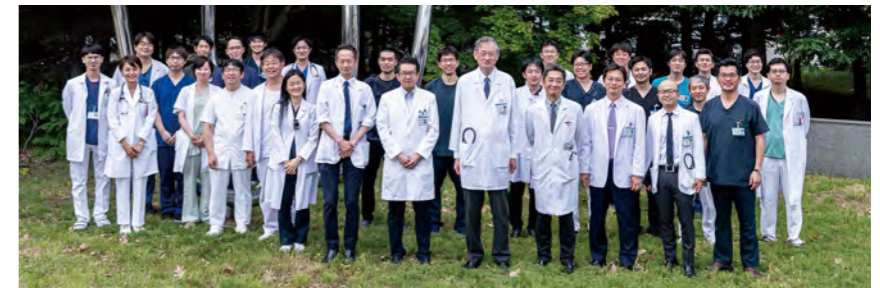


▶ Physician-Scientistを目指して海外留学

若手医師には、臨床・基礎を問わず、一定期間でも研究に携わることをお勧めしています。疑問からスタートし、今わかっている事と今わかっていない事を整理し、仮説をたて、データを集めて考えるという「scientist」としてのプロセスを学ぶ事は、「physician」としての能力も確実に養ってくれます。さらに最近では、translational researchという基礎研究で得られた知見を臨床応用につなげようとする動きがますます盛んになっています。

当講座では、常時数名が海外留学に行き、最新の基礎研究や臨床研究に従事しています。世界中に友人が出来ること、家族とも多くの時間を共有でき

ること、集中して英語が学べることも留学の魅力です。帰国後はその経験を生かして若手医師とともに研究活動を続け、毎年多くの論文を発表しています。研究が面白いと感じたら、ぜひ海外留学も志してください。



充実のスタッフで研修をサポートします！

内科専門医（呼吸器専門医） 研修プログラム

呼吸器・アレルギー内科学講座（呼吸器・アレルギー内科）の研修では、実績を積んだ指導医のもとで内科医、呼吸器科医として十分な知識・技量を

習得することができます。札幌市内および北海道内の地域中核病院が関連病院となっており、また本学附属病院との良好な連携により、初期研修・後期

研修を通して充実した教育体制が整っています。

▶当講座の内科・呼吸器専門研修プログラムの概要

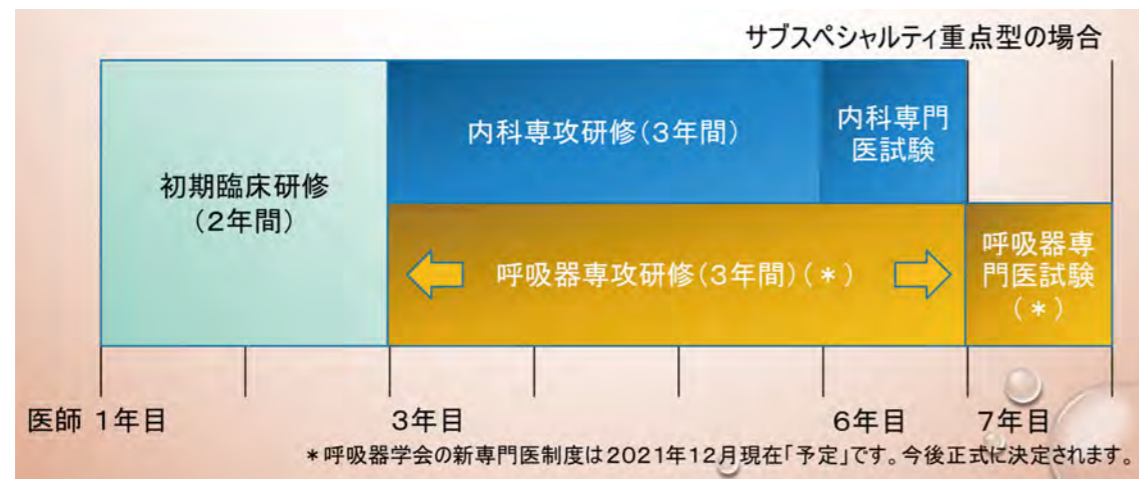
新内科専門医制度が2018年に開始されており、呼吸器専門医もこれに合わせ、2021年に新制度に移行しました。他の内科領域のサブスペシャリティと同様、呼吸器専門医も内科専門医との2段階方式となっており、呼吸器専門医を取得するにはまず内科専門医を取得する必要があります。

3年間の内科専門研修を修了後に、3年間の呼吸器専門研修を行う「通常

タイプ」では、医師年次9年目で呼吸器専門医を取得することができます。

また、内科専門研修に並行して呼吸器指導医の下で充実した専門研修を行うことによって、内科専門研修のうち最長2年間は呼吸器専門研修に組み入れることが可能な「連動研修タイプ」も選択可能です。このコースでは最短期間で医師年次7年目で呼吸器専門医を取得することができます。

当講座の関連病院は前述のように地域中核病院がメインであるため、内科・呼吸器科の主要疾患を経験することができます。それぞれの医師のキャリア形成やライフプランに応じて柔軟に対応しています。



▶当講座の研修により取得できる専門医・認定医

呼吸器専門医以外にも各学会の認定専門医・指導医が在籍しており、認定施設になっている関連病院で研修することにより、以下の専門医が取得可能です。

- ・日本アレルギー学会
アレルギー専門医 (内科)
- ・日本感染症学会感染症専門医
- ・日本呼吸器内視鏡学会
気管支鏡専門医

- 他に
- ・日本がん治療認定医機構
がん治療認定医
 - ・日本結核病学会結核・
抗酸菌症認定医 など

▶後期研修の対象となる北海道内の関連病院

「通常タイプ」だけでなく、「連動研修タイプ」により呼吸器専門医をより早く取得できるように、研修先を調整しています。特別枠の後期研修医についても、指定医療機関に該当する当科の関連病院を研修することにより、呼吸器専門医を遅れなく取得することが可能です。



▶学位取得・大学院・国内外留学など

当教室の大学院生は、医化学講座、病理学第一講座、微生物学講座、フロンティア医学研究所免疫制御医学部門、同細胞科学部門など、幅広い分野の研究室で研究を行っています。

専門研修修了後、大学の講座に研究

医として戻り、臨床研究、基礎研究を行って学位を取得することも可能です。

2021年12月現在、米国のUniversity of Cincinnatiに当教室の医師が海外留学しており、学位取得後の研究を続けています。また、2022年4月からは肺

癌の全国有数の専門施設である静岡県立がんセンターへ国内留学を予定しています。

当教室では、医師それぞれの将来の展望にあわせて、さまざまな選択肢を提供します。

内科専門医 (消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、 肝臓専門医、がん薬物療法専門医、血液専門医) 研修プログラム

私たち、札幌医科大学腫瘍内科学講座、血液内科学は、明日の北海道のがん医療、血液科医療を担う専門医養成に大きな自信を持つ育成プログラムを持っています。

Q. なぜ、札幌医科大学腫瘍内科学講座、血液内科学は、がん医療、血液科医療を担う専門医の育成に自信を持っているのですか？

A. 大学と関連病院の連携による濃密な育成プログラムを通して豊富な症例数の関連病院と大学での研修、先進的な治療と研究を経験できる臨床・研究能力の高い専門医(プロ)の養成に力を入れています。

▶大学と関連病院での豊富な診療経験を得ることができるローテーションシステム

専攻医がローテーション可能な大学病院臨床チーム

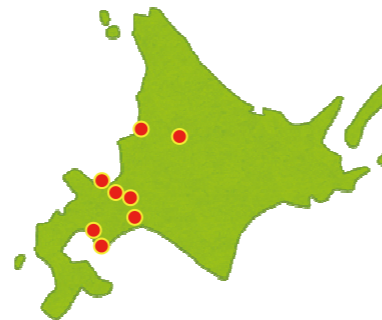
- ・オンコロジーチーム~臓器横断的な腫瘍診療や希少がん診療、がんゲノム医療 など
- ・消化管チーム~上下部、小腸内視鏡でのがん診断、内視鏡治療と消化管がんに対する抗がん剤治療 など
- ・肝胆膵チーム(肝臓領域)~ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法、肝がんの薬物療法 など
- ・肝胆膵チーム(胆膵領域)~様々な胆膵内視鏡手技、胆膵領域がんの化学療法 など
- ・血液チーム~血液診療全般

専攻医がローテーション可能な本講座の魅力的な関連病院

- 専攻医のローテーション先病院実績(過去5年分):
- 札幌医科大学附属病院 17人年
 - 王子総合病院 16人年
 - 製鉄記念室蘭病院 15人年
 - 留萌市立病院 5人年
 - 伊達赤十字病院 4人年
 - 斗南病院 2人年
 - 小樽経済会病院、東札幌病院、札幌共立五輪橋病院、旭川赤十字病院、函館赤十字病院 各1人年

サブスペシャルティ学会認定施設	関連教育病院(研修病院)	診療科	指導者数(人)	うち専門医数(人)
消・内・肝・腫・血	製鉄記念室蘭病院	消化器内科・血液腫瘍内科	9	8
消・内・血	王子総合病院	消化器内科・血液内科	7	7
消・内	留萌市立病院	消化器内科・総合内科	5	4
消・内・肝	伊達赤十字病院	消化器内科	5	4
消・内・肝・血	旭川赤十字病院	血液内科	4	4
消・内	小樽経済会病院	消化器内科	5	5
消・内・腫・血	北海道がんセンター	消化器内科	6	6
消・内・腫・血	斗南病院	消化器内科・腫瘍内科	7	6
消・内	千歳市立病院	消化器内科	3	3

消:消化器病学会、内:消化器内視鏡学会、肝:肝臓学会、腫:臨床腫瘍学会、血:血液学会



主な本講座の専攻医研修先プロフィール



▶プロフェッショナルの道を探る~研修可能な国内留学先

希望に応じて当科関連道外施設への国内留学も可能です。
国内留学実績: 静岡県立静岡がんセンター

ンター、国立がん研究センター中央病院、国立がん研究センター東病院、がん研有明病院

▶さらにその先へ~海外留学の実績

海外留学の希望者には、留学先の選択、奨学金の獲得など留学実現のための支援をしています。
海外留学実績: ハーバード大学医学部 マサチューセッツ総合病院(3名)、

ハーバード大学医学部 ダナファーバーがん研究所(6名)、ボストンチルドレンズホスピタル(1名)、ロズウェルパークがん研究所(1名)、ベイラー医科大学(2名)

▶専門医取得のサポート~どのような専門医を取れますか?

まず、初期臨床研修医期間2年間と専攻医期間の3年間で基本領域である「内科専門医」を取得します。

それと並行して将来進みたい右図に示すサブスペシャルティ領域の専門医研修を行います。

当科の関連施設はこれらの研修施設であり、専門医取得のサポート体制も万全です。



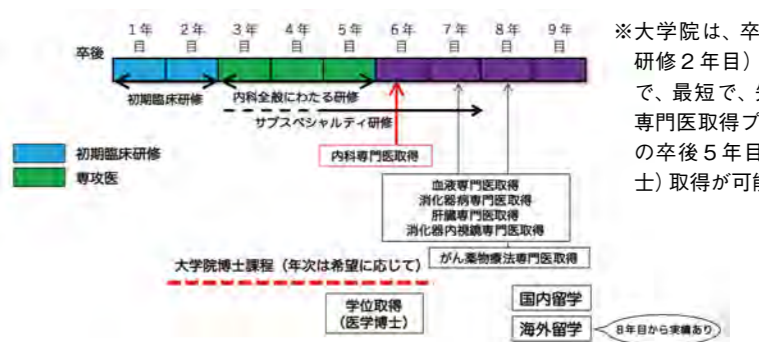
専門医・認定医	認定学会	専門研修期間
血液専門医	日本血液学会	卒後6年以上
がん薬物療法専門医	日本臨床腫瘍学会	卒後7年以上
消化器病専門医	日本消化器病学会	内科専門医取得後※3年以上
消化器内視鏡専門医	日本消化器内視鏡学会	内科専門医取得後※3年以上
肝臓専門医	日本肝臓学会	内科専門医取得後※3年以上

※内科専門医取得のための期間に並行研修を行うことで期間を短縮することができます。詳しくは、本講座までお問い合わせください。

※内科専門医取得のための期間に並行研修を行うことで期間を短縮することができます。詳しくは、本講座までお問い合わせください。

▶専門医取得のモデルケースを個人の希望によりアレンジした“個別相談型専攻医研修”

右図は1例ですが、本講座のサポートのもと、基本領域、サブスペシャルティの専門医取得はもちろん、学位、国内留学、海外留学についても、みなさんご希望に基づいたキャリア形成ができる「個別相談型専攻医研修」により、高い実力を持つ「自分のミライ像」を実現できます!



※大学院は、卒後2年目(臨床研修2年目)から入学が可能で、最短で、先進研修連携枠専門医取得プログラム期間中の卒後5年目に学位(医学博士)取得が可能です。

▶~人材~がん治療、血液治療の「先輩」からの熱心な指導!

そして何より、各領域のプロフェッショナル、各学会の専門医、指導医、評議員を多数輩出する本講座(大学、関連施設)の先輩医師が、みなさんの成長を親身に、精一杯支援いたします。

腫瘍内科学、血液内科学に興味のあるみなさん、是非一緒に患者さんのために汗を流しましょう!そしてその先に見据える本当になりたい自分の姿の実現を我々は精一杯応援させていただきます!



お待ちしております!

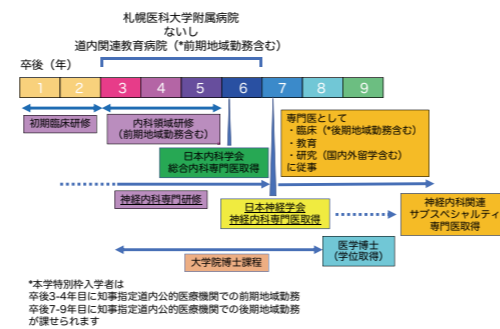
内科専門医 (神経内科専門医) 研修プログラム

高い専門性を持ち全人的医療ができる神経内科医の育成

▶札幌医科大学神経内科専門研修プログラムの特徴

神経内科学はトレーニングを受けた専門家が診察することにより、正しい診断、正しい治療法の選択が行われる極めて専門性の高い分野です。一方で、神経難病は治療法も限られているものもあるため、地域の福祉・保健医療と連携しつつ患者ケアにも配慮した全人的診療のできる優れた臨床医が必要です。札幌医科大学神経内科ではそれらのニーズを満たすことができる神経内科医を養成するため、豊富な症例

数を有する大学附属病院をはじめとする専門研修施設が整っており、それぞれに経験と人格に優れた指導医が配置されて若い研修医・専攻医の育成にあたっています。キャリアパスの選択肢も豊富です。直近10年間に入室した教室員の1/3は女性で、男女限らず出産や育児を行いながらの研鑽にも支障はありません。出身大学も多様ですが教室員一丸となって質の高い医療を実践しています。



*本学特別特入学者は卒後3-4年目に知事指定道内公的医療機関での前期地域勤務卒後7-9年目に知事指定道内公的医療機関での後期地域勤務が課せられます

▶札幌医科大学神経内科専門研修プログラムの概要

神経内科学の専門医になるためには、まず総合内科専門医を取得しなければなりません。2年間の初期研修が修了した後、札幌医科大学附属病院および教育関連施設で、専攻医として専門研修を行います。最短で卒後6年目に総合内科専門医を、7年目に神経内

科専門医の取得が可能です。神経内科専門医取得後、関心領域でのサブスペシャリティ専門医資格も取得可能です。
 ・脳卒中学会専門医 (日本脳卒中学会)
 ・日本脳神経血管内治療学会専門医 (日本脳神経血管内治療学会)
 ・老年病専門医 (日本老年医学会)

- ・認知症専門医 (日本認知症学会)
- ・日本臨床神経生理学認定医 脳波分野/筋電図・神経伝導分野 (日本臨床神経生理学学会)
- ・てんかん専門医 (日本てんかん学会)
- ・臨床遺伝専門医 (日本人類遺伝学会)

▶地域医療の最前線に位置する道内教育関連病院

道内の神経内科専門医・指導医の数は決して多くありませんが、当専門研修プログラムの教育関連病院は、地域の神経疾患の最前線で診療を担っております。このため脳血管障害や中枢神

経感染症などの急性期治療や全身管理が必要な疾患から、神経変性疾患などの慢性疾患の治療や管理に至るまでの包括的な研修が可能で、幅広い知識や必要な技量を身につけることができま

す。また、これらの施設のほとんどは日本神経学会の教育施設ないし准教育施設ですので神経内科専門医の取得のための研修先として十分な研鑽を積むことが可能です。

▶臨床・研究のさらなるエキスパートへ

神経内科専門医を取得した後も、臨床能力を磨く、さらなる専門性を身に着けたいと希望される場合は必要に応じて道外医療機関で国内留学することも可能です。特に道内で不足している脳血管内科医を志す教室員が増えており、現在

生物学、神経薬理学、神経機能生理学などの広範囲の神経科学について学ぶことができます。学位を取得した後さらなる研究の継続を希望される場合は海外留学も可能で以下の機関に教室員が留学した実績ないし現在留学中です。

- ・国立循環器病センター脳血管内科・脳神経内科 (大阪府吹田市)
 - ・国立病院機構九州医療センター脳血管・神経内科 (福岡県福岡市)
- で研修や臨床研究を行っています。また、神経内科専門医取得前後に、大学院にて基礎研究を行い、医学博士号を取得することも可能です。分子神経

- ・Yale University (米国コネチカット州)
 - ・Boston Medical University (米国マサチューセッツ州)
- 札幌医科大学神経内科学講座は教室員が目指す高い臨床能力、研究能力のある神経内科医養成のため最大限の支援をいたします!



神経内科専門医資格要件

医師免許を有し日本内科学会総合内科専門医資格保有

初期研修を含む臨床研修期間6年以上を有し日本神経学会会員歴3年以上

学会認定施設での次のいずれかの研修歴を満たす

- ・教育施設で3年以上
- ・教育施設で2年以上、かつ准教育施設を含めて合計3年以上
- ・教育施設2年以上、かつ准教育施設・関連教育施設を含めて合計4年以上
- ・教育施設2年未満の場合、准教育施設含めて合計4年以上

神経9疾患群78疾患から120症例以上を経験し(修了には90症例以上の経験が必要)、17症例の症例要約を記載する。

2件の学会・研究会または論文での筆頭発表

各研修施設、学会などが主催する講習会受講



内科専門医（リウマチ内科専門医） 研修プログラム

臨床免疫学を基盤に、
全人的にリウマチ・膠原病患者さんを診療できる医師を目指して

▶札幌医科大学免疫・リウマチ内科 専門研修プログラムの特徴

札幌医大免疫・リウマチ内科では、免疫異常を背景にした全身性疾患、特に関節リウマチを含む膠原病を主体に診療・研究を行い、内科のみならず、全身を診ることのできる医師を目指します。特に免疫疾患の診療において近

年、実臨床で導入が進んでいる分子標的療法は、治療成績の改善をもたらす一方、感染症や発がんなどのリスクがあり、全人的な診療能力の向上を意識した専門研修を行います。また、当教室は、21世紀になって新たな疾患概念

として確立したIgG4関連疾患の診療・研究で全国的に高く評価されており、全身疾患であるIgG4関連疾患に関して、新たな試みも含め豊富な経験を積むことができます。

▶プログラムの概要（図参照）

2年間の初期研修終了後、卒後3～5年目の3年間は札幌医科大学附属病院および関連教育病院での研修を通じ

て、内科臨床医としてのスキルアップと卒後6年目での内科専門医の取得を目指します。その間、一部重複しながら、サブスペシャリティとしてのリウマチ専門医、免疫療法認定医の取得を目指して研修を行うことができます。

リウマチ専門医資格要件（日本リウマチ学会）
日本リウマチ学会の会員であること（入会后、3年以上）
初期臨床研修終了後、3年以上のリウマチ専門研修を修了していること
3年間で入院症例記録 10例、外来症例報告 30例、経験入院症例 40例、経験外来症例 80例の登録を行うこと
学会研修単位30単位以上を有すること（学術集会出席、論文・学会発表）

免疫療法認定医資格要件（日本臨床免疫学会）
日本臨床免疫学会の会員であること（入会后、3年以上）
免疫抑制療法・免疫に関する臨床経験があること：診療経験 30例以上
学会発表または論文が3つ以上
過去2年間に1回以上、本学会学術集会に出席していること
学会研修認定単位6単位を取得していること



▶どこで研修するか

札幌医大病院のリウマチ専攻医プログラムでは教育施設外研修1年を含め3年間の臨床研修を予定しています。特に認定教育施設ないしは準認定教育施設では、関節リウマチを含むリウマチ・膠原病を主体に難治例・重症例の診断や専門的治療を学ぶとともに、膠原病診療に関わる内科以外の領域につ

いても広範囲に研修します。一方、教育施設外研修では地域医療に従事しながら、リウマチ性疾患以外の内科疾患の診療を経験することで臨床能力の幅を拡げることが期待されます。

*準認定教育施設

JR札幌病院、札幌厚生病院、苫小牧市

立病院、帯広協会病院、滝川市立病院、市立釧路総合病院、釧路赤十字病院、北見赤十字病院、市立小樽病院、栗山赤十字病院、北海道せき損センター、北海道大学

*教育施設外研修施設

町立別海病院、小清水赤十字病院、北海道整形外科記念病院

▶さらにレベルアップするために

大学院は卒後2年目から入学可能です。大学院生においては大学病院または札幌市内の関連病院で臨床業務に従事しつつ、指導教官のもと臨床・基礎研究に取り組み、医学博士の取得を目指します。また大学院に進学しない場合も、研究生として在籍（卒後3年

目以降で6年間）し、臨床研究に取り組むことで医学博士の取得が可能です。特に当科は、涙腺・唾液腺を侵す二大疾患であるシェーグレン症候群とIgG4関連疾患の診療・研究では全国的にも高く評価されています。IgG4関連疾患の厚労科研究班ではレジスト

リ登録施設となっており、診療患者数も多いことから、これら疾患をテーマとしての先端研究を行います。

さらに希望者においては臨床研修あるいは基礎研究において国内外の専門施設への留学も可能です。

小児科専門医 研修プログラム

高いプライマリアケア能力を持った小児科専門医の育成

小児科学講座では、「高いプライマリアケア能力を持った小児科専門医」の育成と「高い専門性を持ち、臨床および研究で世界に通用する小児科専門医」の育成を目指しています。

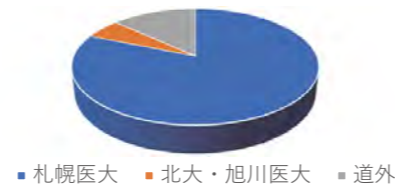
初期研修終了後の3年間で小児科全般の診療能力を持つ小児科医を育成し、その後のキャリアプランでは、学位の取得、各副専門領域の専門医取得

などを提案します。札幌医大小児科では札幌医大以外の卒業生も入局するケースも比較的多くあります。

道外の大学出身者の入局が比較的多く見られます。

初期研修終了後、小児科専攻医プログラムに登録する段階から入局をおすすめしています。

2012～2021年
入局者の出身大学



▶札幌医科大学小児科専門研修プログラムの概要

2年間の初期臨床研修後、札幌医科大学附属病院（基幹施設）および道内の教育関連施設（連携施設）で小児科専門研修を行います。

3年間の小児科専門研修プログラム終了後、小児科専門医試験に合格する事で専門医資格を取得できます。

小児科専門医取得後、下記のサブス

ペシヤリティ取得が可能です。

- ・小児腎臓専門医
- ・小児神経専門医
- ・てんかん専門医
- ・感染症専門医
- ・内分泌専門医
- ・新生児専門医
- ・小児血液・がん専門医

- ・血液専門医
- ・小児循環器専門医

国内留学を終えた医師により、今後は小児救急専門医、アレルギー専門医の研修施設になることを目指しております。

小児科専門医資格要件
初期臨床研修後、3年間以上小児科専門プログラムを専従して終了する事
小児科学会が定めた小児科専門医の役割を身につける
小児科学会が定めた項目（33症候、109疾患、54技能）のそれぞれ8割以上を経験する
学会学会、学会発表、論文発表など所定の業績を有する

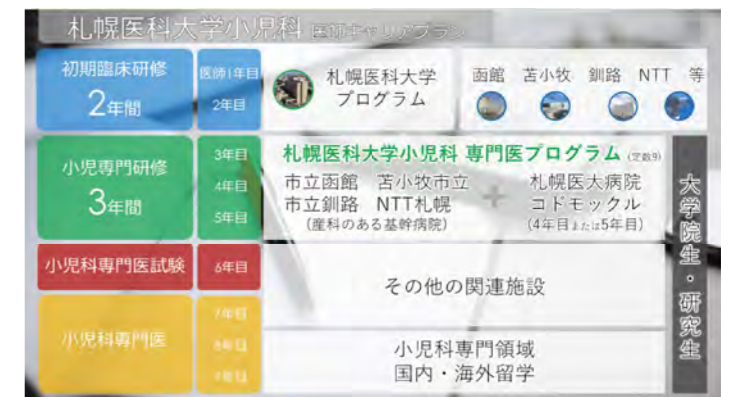
▶具体的なキャリアプラン

本研修プログラムの関連施設は北海道内の地域医療の中核を担っており、専門医取得までの一定期間（3年目～5年目）は比較的医師数の多い関連施設（連携施設）、及び札幌医大附属病院（基幹施設）で研修を行います。

経験を積み小児科専門医取得後に、北海道の医療を担う医師として後期地域勤務を行っていただきます。（6～7年目）

大学院入学や副専門分野の研修などにより、学位やさらなる資格の取得が可能です。

まずは、多彩な小児疾患に対応できる、小児科専門医になる事をめざします。



▶さらなる高みへ～国内留学で臨床能力を高める～

小児科専門医取得後には、個人の希望に応じて各サブスペシヤリティ領域の国内留学も可能です。

札幌医大附属病院で取得可能な専門医も多数ありますが、国内最先端の施設で専門性を高める目的の国内留学も

積極的に行っています。

これまで、神奈川県立子ども病院、都立小児総合医療センター、愛知小児保健医療総合センター、国立精神・神経医療研究センター、東京女子医大、聖隷浜松病院などへの派遣実績があり

ます。

来年度も複数名の国内留学を予定しています。

サブスペシヤリティ領域の専門性を高める目的での国内留学も可能です。

▶札幌から世界へ～学位取得、海外留学の道～

専門医取得後、大学院入学や基礎医学の教室と連携して学位（医学博士）の取得が可能です。

学位取得後、さらなる研究の発展を目指す医師は海外留学で研究を継続す

る事が可能です。

これまで米国国立衛生研究所（NIH）、ペンシルバニア州立大学ガン研究センターなどへの留学実績があります。

学位取得、海外での研究を行い、継続的に新しい医学的知見を追求しています。

精神科専門医、精神保健指定医 研修プログラム

多様な臨床経験と症例数で真のプロフェッショナルを育成する

▶札幌医大神経精神科の精神科専門研修プログラムの特徴

今日、精神科が担う医療はたいへん広範です。一般外来における精神科受診者数は、内科各領域のそれに匹敵し、一般救急を筆頭にあらゆる診療科からのコンサルテーションが増加の一途を辿り、日々、精神科救急案件や身体疾患をもつ事例への緊急対応が求められています。さらに、超高齢化に付

随して認知症医療へのニーズが高く、また社会の変革にともなう児童・思春期症例や性別違和等への対応も求められ、精神科の存在なくして総合病院や地域医療の運用は困難だとさえ言われています。地域ではより精神科医のニーズが高く、かつ多様な事例に対応できる専門医が求められています。札

幌医大神経精神科の精神科専門研修プログラムでは、このようなニーズに対応することのできる多様かつ個性的な研修施設と地域医療を担う指導医により運営され、多くの事例、多様な事例を専門医の指導のもとに経験することができ、真のプロフェッショナルとなることができます。

▶専門研修プログラムの概要

本施設群は20施設から成る。基本的に1年目は研修基幹病院で、2、3年目は研修連携施設で研修します。研修連携施設群は、北海道各地域の地域医療を担う主要な総合病院および単科精神科病院、札幌市内の精神科クリニックから構成されています。クリニックを除く全ての施設が精神保健指定医取得に必須な措置入院に係る指定病院です。

研修基幹施設である札幌医科大学附属病院では、主要な精神疾患や身体合併症を有する患者、思春期症例、認知症を網羅的に担当し、面接法、検査法、診断学、治療学（各種精神療法・薬物療法・身体療法）、多職種協働の患者の個別性を重視したケース・マネジメントの基本技術を習得する。また、難治例に対するm-ECTやクロザピン治療を経験します。

札幌医大附属病院神経精神科は、コ

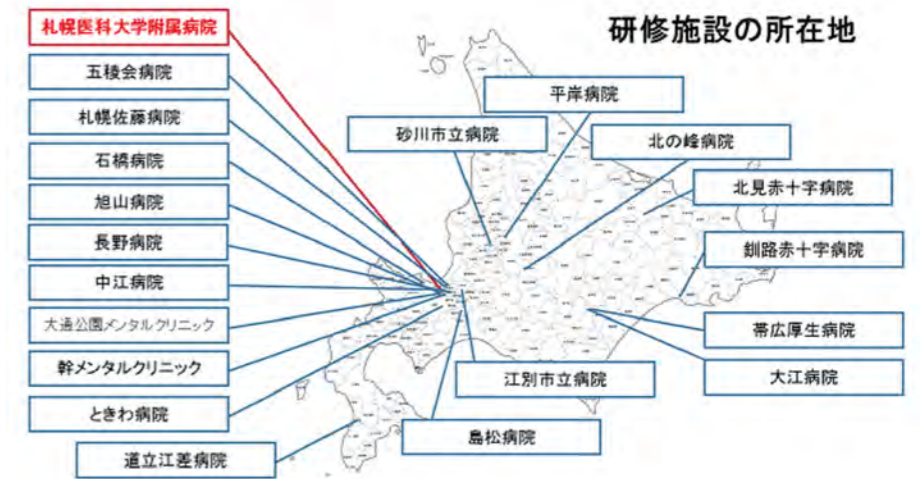
ンサルテーション・リエゾンと緩和医療に注力しており、指導医のもと豊富な症例を経験することができます。札幌医大は道内の大学附属病院で唯一の高度救命救急センターをもちますが、神経精神科はセンターと緊密に連携し、エビデンスに基づく自殺未遂者への介入（自殺再企図防止）に取り組み国内外

から注目されてきましたが、そこに関わる事ができます。外来は、各種専門外来を擁し、性同一性障害・性別違和等の臨床も経験することができます。神経精神科は数多くの研究グループと専門外来を有し、希望により研究への参加や学会発表等も経験でき、リサーチマインドを養うことができます。



▶研修を実施する病院

本研修プログラムは、札幌医大神経精神科の地域関連病院と連携して実施されます。関連病院は、いずれも各地域の中核的な役割を担い、一般救急、精神科救急などの地域の急性期医療の要であり、かつ、それぞれがコンサルテーション・リエゾンや児童精神医療、老年精神医療、物質依存症医療などについて、特徴を有しています。このような関連病院ネットワークの中で、数多くの幅広い症例について、地域に根ざして深く学ぶことができ、技量を高めることができます。そして、どのような地域や医療現場でも、またどのような症例と出会っても対応できる、真のプロフェッショナルと言える専門医になることができます。



▶高い専門性で全国を俯瞰し、世界にはばたくアドバンス・コース

専門医取得後は、個人の希望や特性に合わせて、コンサルテーション・リエゾン、サイコオンコロジー（精神腫瘍学）、精神科救急、老年精神医学、児童精神医学、物質依存症医療、ジェンダー医療（GIDや性別違和）、臨床精神薬理、地域精神保健、自殺予防学など

のさまざまなサブスペシャリティを高めるための研修を続けて行うことができます。また、神経精神医学講座において、再生医療技術を用いた精神疾患の新規治療方略の開発研究や、神経画像研究などの基礎研究に携わることもできます。希望者には、博士号の学位取

得を支援します。また、スタッフは海外留学生も多く在籍し（カリフォルニア大学サンディエゴ校、カロリンスカ研究所、ヴェルツブルグ大学、コロラド大学）、国内外の留学も支援します。



皮膚科専門医 研修プログラム

▶コースの概略

皮膚科学講座（皮膚科）では、十分な臨床経験を積んで皮膚科診療をマスターできるよう、札幌医科大学附属病院と学会認定研修施設とを年単位でローテーションする臨床研修を予定している。皮膚科専門医取得の要件としては、日本皮膚科学会入会後5年以上継続して皮膚科学会正会員であるこ

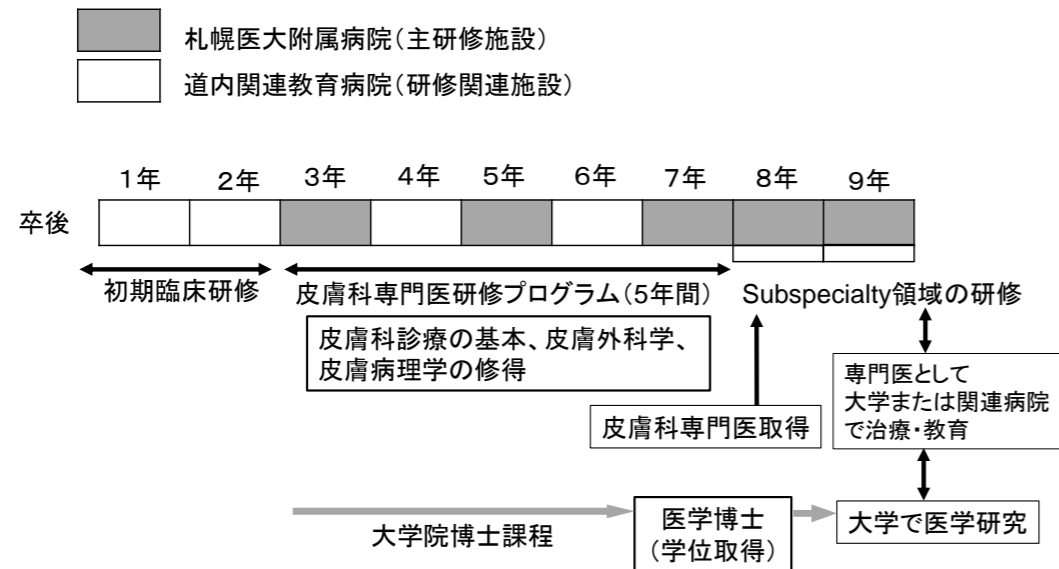
と、学会認定専門医研修施設（主研修施設と研修関連施設）で研修（新専門医研修プログラム）を5年間受け、この間に必要な症例、手術を経験する。研修期間の終了後、専門医認定申請を行って認定試験を受け、その合格をもって皮膚科専門医となる。専門医取得後は、大病院や関連施設でのSubspecialtyの研

修、大学での研究に従事し、卒後10年目以降は指導的立場で臨床・研究・教育に従事する。

大学院については、希望者は初期研修終了後に入学が可能で、専門医研修と並行して研究を行うことができる。

▶卒業後キャリア形成プログラム

【9年間の研修予定：モデルケース】



▶学外指導体制

関連教育病院

学会認定施設	関連教育病院	診療科	指導者数(人)	うち専門医(人)
○	札幌厚生病院	皮膚科	3	2
○	NTT東日本札幌病院	皮膚科	1	1
○	北海道医療センター	皮膚科	2	1
○	JCHO北海道病院	皮膚科	2	1
○	砂川市立病院	皮膚科	2	1

▶専門医について

皮膚科専門医資格要件 (日本皮膚科学会)

- 日本の医師免許
- 5年以上継続して日本皮膚科学会正会員
- 日本皮膚科学会認定専門医研修施設群で5年以上の皮膚科研修を終了
- 計1年以上は皮膚科専門医プログラムの中心となる
- 主研修施設(札幌医科大学)で皮膚科研修
- 認定前研修実績を満たしていること
(講習会参加、筆頭論文、学会報告、症例・手術レポート提出)

※初期臨床研修を終了後に皮膚科専門医研修プログラムへ参加することができる。
 詳細は日本皮膚科学会のウェブサイト参照のこと。
<http://www.dermatol.or.jp/index.html>

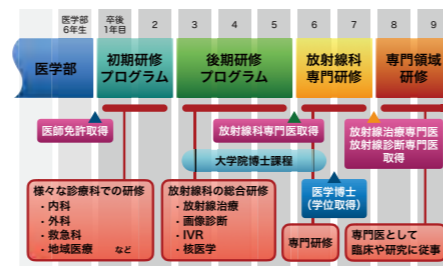
放射線科専門医、放射線治療専門医研修プログラム

質の高い放射線診断、安全で確実な放射線治療とIVRの実践、世界に通用する専門医育成

▶札幌医大放射線科専門研修プログラムの特徴

このプログラムは、放射線診療・放射線医学の向上発展に資し、医療を向上させ、かつ放射線を安全に管理し、放射線に関する専門家として社会に対して適切に対応し、優れた放射線科領域の専門医を育成する制度です。最大の特徴は、上記目標を達成する

ために必要な症例数、専門研修施設と指導医数が豊富で、教育体制が整っていることが挙げられます。明確なキャリアパス構築のためのシステムが確立しており(図)、本教育体制に魅力を感じた放射線科専攻医が集まっています。



▶札幌医大放射線科専門研修プログラムの概要

2年間の初期研修後、札幌医科大学附属病院および道内専門研修連携施設で、放射線科専門研修を行います。3

年以上の専門研修プログラム修了後、放射線科専門医試験に合格することで専門医資格を取得できます。



▶札幌医大放射線科専門研修プログラムの概要

2年間の初期研修後、札幌医科大学附属病院および道内専門研修連携施設で、放射線科専門研修を行います。3年以上の専門研修プログラム修了後、放射線科専門医試験に合格することで専門医資格を取得できます。

放射線科専門医資格要件
初期臨床研修後、満3年以上放射線科専門プログラムを専従として修了すること。
画像診断として、以下の症例数の読影を行うこと ・X線単純写真400例、消化管X線検査60例、超音波検査120例、CT600例、MRI300例、核医学検査50例
血管・非血管系IVRを30例経験すること
放射線治療を30例経験すること
学会参加、学会発表、論文発表など所定の業績を有すること。

▶具体的にどこで学ぶか? ~道内専門研修連携病院での研修を行い、臨床能力を高める~

本研修プログラムは、札幌医大附属病院および、道内専門研修連携病院での研修を行い、診療の幅を広げることを目指としています。専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍な

どの画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。このような地域中核病院(下に一覧)での研鑽を経ることで地域医療の実情、およびニーズを学び、多様な医療に対応できる質の高い放射線科専門医になることを目指します。



▶放射線科専門医取得後、以下のサブスペシャリティ取得が可能です。



▶北海道から世界へ ~学位取得、海外留学、MDリサーチャーの道~

放射線科専門医取得前後にあわせて、大学院において画像診断、放射線治療、IVRに関わる様々な領域の基礎研究を行い、学位(医学博士)を取得することが可能です。

学位取得後、さらなる研究の発展を目指す医師は、海外留学で知見を深めます。学位研究、海外での研究を通じて、北海道から世界へ向けて、放射線科学

のエビデンスを発信します! 米国サンフランシスコUCSF大学での短期留学



放射線科専門医 (放射線診断専門医) 研修プログラム

安全で質の高い画像検査／放射線診断の提供、次世代を担う放射線診断医の育成

▶札幌医科大学放射線診断科について

札幌医科大学放射線診断科では、「患者さんにとって負担の少ない、安全で安心な、医学的にも質の高い検査を行う」ことを基本方針としており、精度の高いCT・MRI・シンチグラフィ・FDG-PET/CTなどの画像検査を行い、詳細な画像診断報告書を作成し、放射線診断(画像診断)を通して臨床医学に貢献しています。

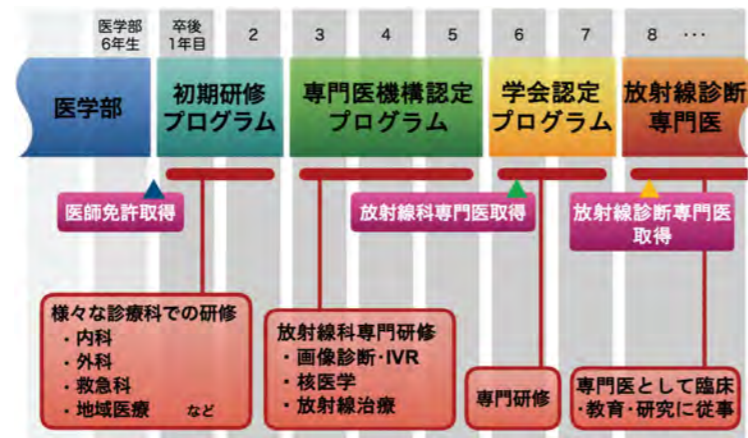
当院では診断用CT 3台、MRI 5台(1.5T 3台、3T 2台)、SPECT/CT 2台、PET/CT 1台を保有しており、多くの画像検査が行われています。また大学病院であるため様々な分野における症例が豊富にあり、興味のある分野について広く深く学ぶことができます。放射線科専攻医研修期間に、大学院へ入学することも可能です。



▶放射線科専門研修プログラムの概要

2年間の初期臨床研修後、札幌医科大学附属病院および道内専門研修連携施設で、放射線科専門研修を行います。3年以上の専門研修プログラム修了後、放射線科専門医試験に合格することで専門医資格を取得できます。

放射線科専門医取得後は、放射線診断専門医取得に重点をおいた研修を行います。2年間以上の専門研修プログラム修了後、放射線診断専門医試験に合格することで専門医資格を取得できます。



放射線科専門医資格要件
初期研修を修了後、放射線科領域専門研修プログラムによる3年以上の専門研修を修了すること。
下記を経験すること。X線単純撮影 400例、CT 600例、MRI 300例、核医学検査 50例、消化管X線検査 60例、超音波検査 120例、血管造影・IVR 30例、放射線治療 30例
学会参加、学会発表、論文発表など所定の業績を有すること。

放射線科専門医取得後に引き続き、放射線診断専門医のサブスペシャリティ専門研修を継続する
取得可能な資格：放射線診断専門医

その他の取得可能な資格：
IVR専門医、核医学専門医、PET核医学認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、第1種放射線取扱主任者など

▶具体的にどこで学ぶか？

~道内専門研修連携施設で放射線科専門研修を積み、臨床能力を高める~

本研修プログラムの関連施設は、地域医療の中核を担っており、道内専門研修連携施設での専門研修を行っております。

専門研修連携施設
(専攻医研修実績)

市立室蘭総合病院 (2017年)

函館五稜郭病院 (2019、2018年)



▶日本の放射線科医の不足について

日本のCT・MRI保有台数は対人口比で世界1位ですが、対人口比の放射線科医は米国の1/4でしかありません。また放射線科医が常駐する医療機関は全体の20%以下であり、大半のCT・MRI検査は放射線科医の監督下にありません。(中島ら日本医放会誌2005) 千葉大学医学部附属病院では、画像診断報告書の確認不足や放射線診断専門医による読影が行われていないことによる患者さんの不幸な転機が問題となり大学病院の構造改革が行われています。

医師全体に占める放射線科医の数は6,587人(内科の約10分の1)と少な

く、医師全体のわずか2%でしかありません。(平成28年[2016年]三師調査)特に北海道では右表に示されるように、放射線科医の不足は深刻な状況です。そのため、日本の放射線診療は需要が高い状態にあり、放射線科医1人当たりの読影件数は世界1位とされています。

安心・安全な医療への第一歩は、正しい診断からであり、圧倒的な放射線科医の不足を解消する必要があります。

北海道の医療を支えるために放射線診断のエキスパートを育てる当科で研鑽を積み、ともに画像診断を極め、思いを実現しませんか？

都道府県別診療科ごとの将来必要な医師数の見通しについて
第7回医療従事者の需給に関する検討会
第30回医師需給分科会より抜粋
(北海道分のみ抽出)

診療科	2016年 医師数	必要 医師数	充実率
内科	4,849	5,470	88.6%
小児科	630	742	84.9%
皮膚科	340	381	89.2%
精神科	722	724	99.7%
外科	1,159	1,461	79.3%
整形外科	936	1,068	87.6%
産婦人科	472	605	78.0%
眼科	474	584	81.2%
耳鼻咽喉科	371	400	92.8%
泌尿器科	339	359	94.4%
脳神経外科	411	402	102.2%
放射線科	210	317	66.2%
麻酔科	544	448	121.4%
病理診断科	86	89	96.6%
臨床検査	17	27	63.0%
救急科	99	186	53.2%
形成外科	127	160	79.4%
リハビリ テーション科	93	108	86.1%
合計	11,879	13,531	87.8%

千葉大学医学部附属病院のホームページ上にて、一般公開されている資料
<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/info/20190530info.html>
https://www.ho.chiba-u.ac.jp/dl/news/info/info2019_06.pdf
<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/info/20180608info.html>
https://www.ho.chiba-u.ac.jp/dl/about/iryozanzen_18.pdf



外科専門医 (消化器外科専門医、乳腺専門医) 研修プログラム



▶消化器・総合、乳腺・内分泌外科専門研修プログラムの特徴

当講座は、「最新かつ安心確実な医療」「北から世界へ発信」「人材育成」をスローガンに、日々教育・研究・診療に研鑽しています。特に「人材育成」に

おいては、外科専門医取得後のサブスペシャリティ (消化器外科専門医、乳腺専門医、小児外科専門医) の取得と、さらにその先のスペシャリストとし

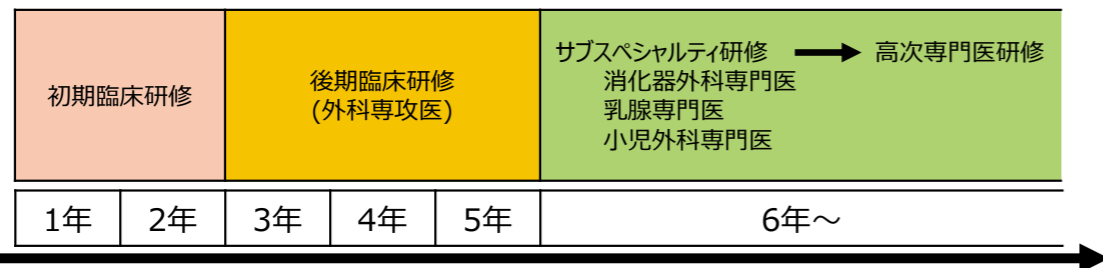
て、より高度な最新医療を担う人材を育成しています。

▶消化器・総合、乳腺・内分泌外科専門研修プログラムの概要

本プログラムで構築するキャリアパスは下図です。2年間の初期臨床研修後、札幌医科大学附属病院および、道内外

の38連携施設で108名の専門研修指導医のもと外科専門研修を行います。3年間の専門研修プログラムを終了し

た後、外科専門医試験に合格すると専門医に認定されます。



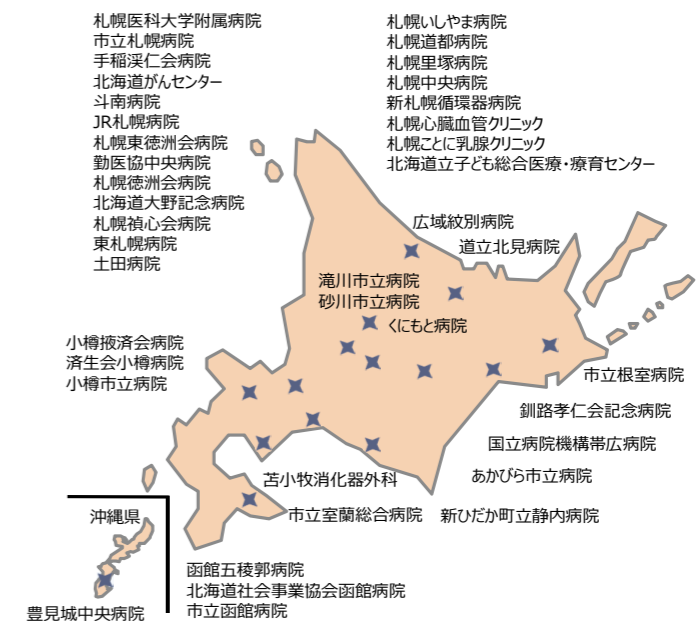
外科専門医取得要件

- 初期臨床研修終了後3年以上の専門研修を行う
- 350例以上の手術を経験し、そのうち120例以上術者として経験する
- 論文発表、学会発表、学会参加などの所定の業績を有する

外科専門医取得後、以下のサブスペシャリティ、高次専門医取得が可能です。
サブスペシャリティ…消化器外科専門医、乳腺専門医、小児外科専門医
高次専門医…内視鏡外科技術認定、大腸肛門病専門医、肝胆膵外科高度技能専門医

▶消化器・総合、乳腺・内分泌外科専門研修プログラムの関連施設

道内各地において、消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座出身の医師は、地域医療や研修医指導の中核として活躍しています。これらの施設 (右図) では、その施設の特色や地域の特性を活かしたトレーニングを受けることができます。



▶北から世界へ発信

大学院において癌治療に関わる領域で基礎研究を行い、学位 (医学博士) の取得が可能です。留学を希望する医師は臨床や研究テーマに応じて、国内・海外留学が可能です。東京大

学医科学研究所、国立がんセンター、がん研究所有明病院米国の Cedars-Sinai Medical Center、Johns Hopkins University、Philadelphia University、Pittsberg University (USA)、

University of Heidelberg (Germany)、Kalorinska University (Sweden) など多数の留学実績があります。
臨床診療、研究を通じて、北から世界に通用する医療を発信しています



外科専門医(心臓血管外科専門医) 研修プログラム

安全で質の高い心臓血管外科手術の提供、
世界に通用する心臓血管外科医の育成

▶札幌医大心臓血管外科専門医研修プログラムの概要

心臓血管外科専門医を取得するためには外科専門医資格が必須です。そのためには初期臨床研修制度終了後に札幌医科大学外科専門研修プログラムに参加し、外科専門研修を開始します。卒業後5年終了を目処に外科専門医試験を受

験できます(図1)。新専門医制度としてまだ確定していませんが、外科専門医取得後から心臓血管外科修練を開始する場合と外科専門医取得前の外科専門医研修開始1年後に心臓血管外科修練を開始し両方の修練を同時に行う場合があ

ります。前者の外科専門医研修と心臓血管外科修練のオーバーラップがない場合は心臓血管外科専門医取得に最短で8年、後者のオーバーラップがある場合は最短で6年で心臓血管外科専門医を取得可能です(図2)。

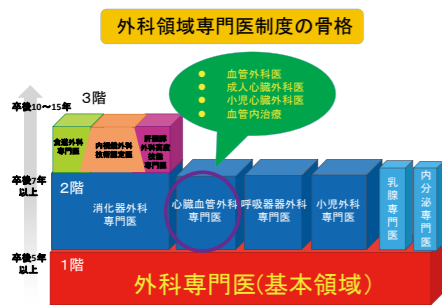


図1

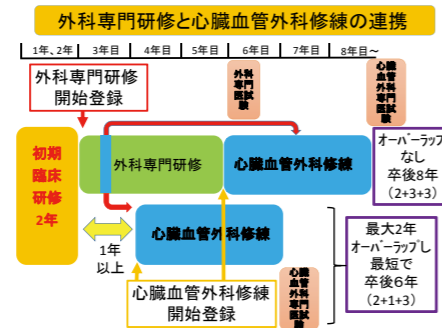


図2

▶札幌医大心臓血管外科専門医研修プログラムの特徴

- (1)多数の心臓血管外科専門医認定修練施設
- (2)膨大な手術症例数
- (3)多くの経験豊富な指導医

札幌医大心臓血管外科では、「安全で質の高い心臓血管外科手術を提供することによる社会貢献」「臨床および研究で世界に通用する心臓血管外科医の育成」を目標としております。そして札幌医大心臓血管外科の最大の特徴は、上記

目標を達成するために必要な手術症例数、心臓血管外科専門医研修施設と指導医数が豊富で教育体制が整っていることが挙げられます。北海道内で心臓血管外科専門医認定修練施設を15施設維持しており、その中で1年間に行う心臓と胸部大動脈の手術のみで2400症例以上を誇ります。これは全国的に見ても1つの研修プログラムの中でも多い方です(図3)。

2020年	施設名	心臓・胸部血管症例数
1	札幌医科大学付属病院	156
2	独立行政法人国立病院機構帯広病院	91
3	北海道立北見病院	96
4	市立札幌病院	59
5	市立函館病院	220
6	砂川市立病院	68
7	小樽市立病院	48
8	手稲溪仁会病院	216
9	北海道大野記念病院	222
10	札幌東徳洲会病院	158
11	函館五稜郭病院	127
12	釧路孝仁会記念病院	93
13	北海道循環器病院	137
14	札幌中央病院	85
15	札幌心臓血管クリニック	451
16	友愛医療センター	157
17	白石記念病院	57
計		2471

図3

▶具体的にどこで学ぶか?

~道内心臓血管外科専門医認定機構が認める基幹施設と認定施設で臨床能力を高める~

2年間の初期研修後、札幌医科大学附属病院および道内心臓血管外科専門医認定機構が認める基幹施設と認定施設で外科専門研修と心臓血管外科専門研修を行います(図4)。専攻医の修練具合によって、心臓血管外科専門医認定施設をローテーションすることで満遍なく修練することが可能です。先天性心疾患の修練を希望する場合は、北海道立子ども総合医療・療育センターでのトレーニングが可能です。

札幌医科大学 心臓血管外科関連施設

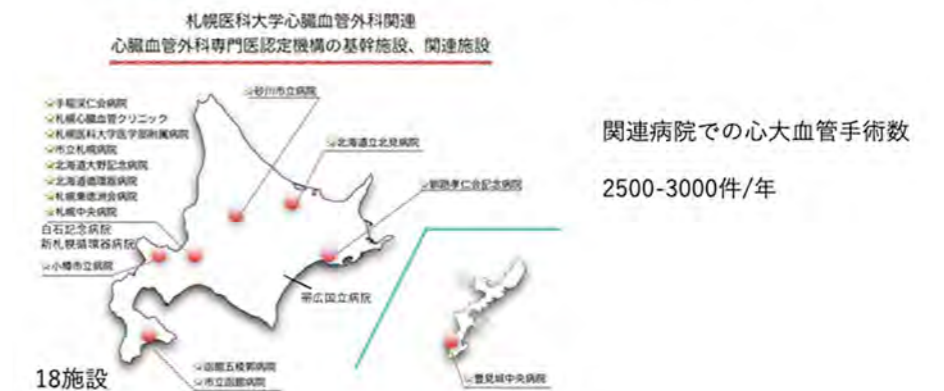


図4

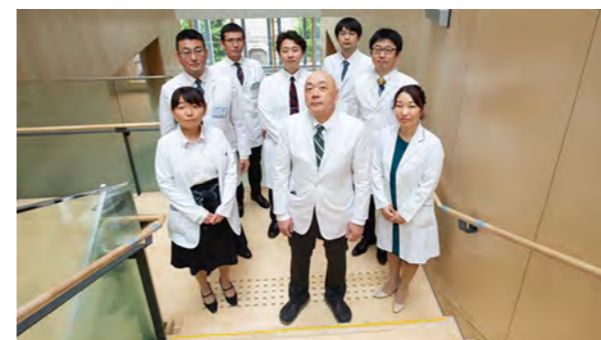
▶Academic surgeonを目指せ ~学位取得と海外留学

心臓血管外科専門医取得前後に、大学院において心臓血管外科に関わる様々な領域の基礎医学講座にて研究を行い、学位(医学博士)を取得する医科学研究コースがあります。また臨床を勉強しながら学位(医学博士)を取

得する臨床医学研究コースもあり、外科専門医ならびに心臓血管外科専門医の取得と同時進行が可能です。また、さらなる研究の発展を目指す医師は、海外留学で知見を深めることもできます(図5)。



図5



外科専門医(呼吸器外科専門医) 研修プログラム

▶コースの概略

肺、縦隔及び胸壁疾患の外科診療を積極的に行っている。平成26年5月、新たに「日本専門医機構」が発足し、基本領域での「外科専門医」、専門領域での「呼吸器外科」、「心臓血管外科」の専門医認定がなされる。当科ではそれらに対応した外科臨床研修プログラムを作成し、本学附属病院及び関連施設での教

育、研修を通じて、有能な呼吸器外科医を育成する方針である。

また、当科は低侵襲手術の適応範囲が広い。原発性肺癌では約90%、良性肺疾患、転移性肺癌ではほぼ100%となっている。早期肺癌に対する縮小手術も積極的に施行しており、この領域に関する集中的かつ高度な教育を行うことが

可能である。また、当科ではダヴィンチX1サージカルシステムによる肺癌手術および縦隔腫瘍手術も施行されており、日本でも有数の症例数を誇っている。心大血管領域の手法も呼吸器外科領域に必須であり、同領域の研修も関連施設(high volume center)で行う。

呼吸器外科専門医資格要件	
医師免許を有すること	
外科専門医であること	
卒後修練期間7年以上を有すること	
認定修練施設において3年以上の修練期間	
必要手術経験(術者50例以上、助手100例以上:必要症例有)	
認定学会学術集会への参加:一定の発表数・論文数	
日本呼吸器外科学会および日本胸部外科学会の会員であり、それぞれ3年以上の会員歴を有すること	

▶学外指導体制

本研修プログラムの関連施設は、地域医療の中核を担っており専門医委取得までの一定期間は様々な施設での研修を行い、診療の幅を広げることを目標にしています。

学会認定施設	関連教育病院	診療科	指導医数(人)	専門医数(人)
◎	市立札幌病院	呼吸器外科	3	3
○	札幌中央病院	呼吸器外科	1	1
○	JR札幌病院	呼吸器外科	1	1
○	北海道がんセンター	呼吸器外科	2	2
○	市立函館病院	呼吸器外科	1	1
○	函館五稜郭病院	呼吸器外科	1	1
○	市立室蘭総合病院	呼吸器外科	1	1
◎	国立病院機構帯広病院	呼吸器外科	1	1
◎	砂川市立病院	心臓血管外科	1	1

学会認定施設: ◎基幹教育施設 ○教育関連施設

▶取得可能な資格

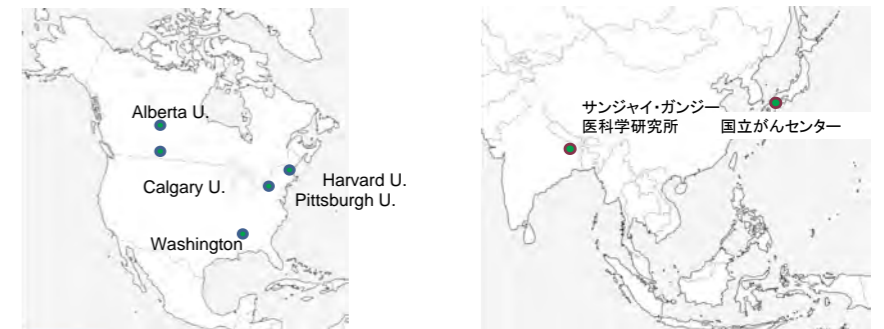
本プログラムを修了し、さら専門研修を継続することにより次の資格を取得することができる。

- ・外科専門医
- ・呼吸器外科専門医
- ・da Vinci certificate (operator)
- ・日本癌治療学会認定指導医
- ・日本気管支鏡学会指導医

▶北海道から世界へ発信

大学院への進学を希望する者は、大学院はもとより臨床大学院、癌プロコースなどの進学が可能である。最短で卒後4年までに学位(医学博士)の取得が可能である。留学希望者には臨床や研究のテーマに応じて、国内・海外留学が選択可能である。

これまでに国内留学では国立がんセンター、海外留学では米国のHarvard University, University of Pittsburgh、カナダのUniversity of Calgary、University of Alberta、インドのサンジャイ・ガンジー医科学研究所などをはじめ多数の留学実績がある。



関連病院



安心・安全な手術を極める

整形外科専門医 研修プログラム

▶札幌医大整形外科専門研修プログラムの特徴

近年の高齢化社会、スポーツ活動の浸透などで変性疾患、スポーツ傷害、外傷など、整形外科に対するニーズがますます高くなってきています。札幌医大整形外科ではそれに応えることのできるV字型の整形外科医を輩出することを使命と考

えています。

V字型の整形外科医とは整形外科全般を広く学び、どんな分野でも診療ができ、なおかつ整形外科の中のあるテーマ、ある分野においては深く掘り下げて学び高度な専門性を持っている整形外科医

のことで、皆さんの可能性を最大限に引き出すことを目的として一般整形外科の全てを学び、さらにその上で専門性を育てるような研修システムを構築しています。

▶研修プログラムの実際

2年間の初期臨床研修が終了後、整形外科教室に入局し整形外科研修がスタートします。最初の1年間は、札幌医大病院を中心に研修を行います。札幌医大整形外科の3つの診療グループ (1)手の外科・肩関節・骨軟部腫瘍、(2)脊椎・脊髄、(3)股関節・膝関節・足関節・足・スポーツ整形外科と、救急・集中治療部、小児整形外科の専門施設である北海道立子ども総合医療・療育センターをローテーションして整形外科の基本的な知識と技能を取得します。

大学病院での研修終了後は、北海道内の教育基幹病院で3年間の研修を行います。研修施設はいずれも日本整形外科学会認定研修施設です。症例が豊富で、専門性の高い整形外科治療を行っています。経験豊かな指導医のもとで、数多くの臨床経験を積むことができます。

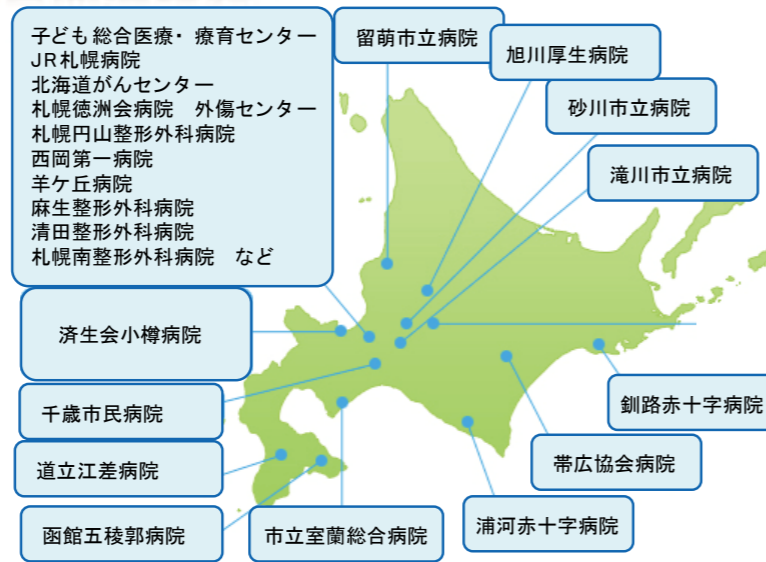
3年間の関連病院での研修終了後は大学病院に戻り、これまでに修得した知識や技術の確認を行います。部位あるいは疾患の専門分野を選択し、より高い技

術と知識の習得を目指します。また、整形外科専門医試験の準備を行います。

整形外科専門医取得後は専門性を持った整形外科医として大学病院や関

連病院でさらに高度な医療の実践、基礎研究や臨床研究、専門研修施設でのさらなる研修など各人の希望にもとづいた生涯研修を行います。

教育関連病院

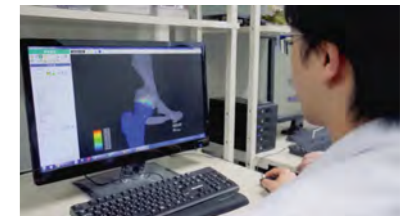


▶大学院への進学や国内・海外留学

整形外科専門医取得後は個人の希望に応じて種々の進路があります。それぞれが身につけた専門性をさらに高めるため、国内・外の専門施設で研修や研究が可能です。札幌医大整形外科では多くの先輩たちが国内・国外留学をして最新の知識や技術を習得しています。留学先も多岐にわたり、海外では米国をはじめ、カナダ、イギリス、フランス、デンマークなどがあります。留学期間は1から2年を基本とし、

留学時期や場所は個人の希望により相談して決めます。

また、整形外科専門研修プログラム終了後、あるいは研修途中でも、希望者は大学院(医学博士取得)へ進むことが可能です。大学院研究期間は4年間です。先端的基礎・臨床研究に力を注いでいることも当教室の特色です。学内外の研究施設・教室と連携するなどして、多様なテーマについて研究を推進しています。



脳神経外科専門医 研修プログラム

▶札幌医科大学脳神経外科専門研修プログラムの特徴

プログラムの特徴は、第一に全身管理能力および脳神経外科医としての迅速正確な診療判断能力を研修を通じて身に着ます。第二に治療困難な脳腫瘍に対する覚醒下手術、脳動脈瘤の血管内治療や手術、てんかん手術を経験します。これらは、日本専門医機構脳神経外

科専門医取得に必要となる各疾患を実際に診療することができるローテーションを組み、道内外の多様な研修先での実地研修を行います。また、救急対応のノウハウを若手のうちに経験し、的確に行動できるような手技を修得することを目標にプログラムを作成しております。

上記目標を達成するための症例数、研修施設及び指導医数が豊富で、キャリアパス構築のための教育体制が整っており、過去5年間の専門医合格率は100%となっています。

▶札幌医科大学脳神経外科プログラムの概要

脳神経外科専門研修では、専門研修プログラムに所属し4年以上の定められた研修により、脳神経外科領域の病気を

べてに対して、予防や診断、手術的治療および非手術的治療、リハビリテーションあるいは救急医療における総合的かつ

専門的知識と診療技能を、獲得します。

▶脳神経外科専門医資格要件

(1)経験すべき疾患・病態

経験すべき疾患・病態および要求レベルは脳神経外科学会の研修マニュアルで規定されており、これに準じて行っています。

(2)経験すべき診察・検査、手術処置等

経験すべき診察・検査および要求レベ

ル同様です。脳神経外科学会の研修マニュアルに規定されており、これに準じて行っています。

脳神経外科専門医取得後、以下のサブスペシャリティが取得可能です。

- ・脳卒中専門医
- ・脳血管内治療専門医

- ・てんかん専門医
- ・脊椎脊髄外科専門医
- ・小児脳神経外科認定医
- ・がん治療認定医
- ・脳卒中の外科技術認定医
- ・神経内視鏡認定医
- ・認知症専門医

疾患	必須件数	研修内容	必要件数
脳腫瘍	30例	うち良性脳腫瘍の管理	10例
		うち悪性脳腫瘍の放射線・化学療法を含めた管理	10例
脳血管障害	40例	うち虚血性脳血管障害の保存的治療なし術前術後管理(血管内治療を含む)	10例
		うち脳内出血患者の保存的治療なし術前術後管理	10例
		うちくも膜下出血患者の保存的治療なし術前術後管理	10例
		頭部外傷患者の保存的治療なし術前術後管理	20例
外傷	20例	頭部外傷患者の保存的治療なし術前術後管理	20例
脊椎・脊髄	10例	脊椎・脊髄患者の検査、保存的治療なし術前術後管理	10例
小児	5例	15歳以下の小児脳神経外科疾患の検査、保存的治療なし術前術後管理	5例
機能	5例	てんかん、不随意運動、MVDなどの検査、保存的治療なし術前術後管理	5例
その他	10例	終末期患者の管理	5例
		リハビリ患者の管理	5例

疾患の管理経験

手技	件数
穿頭術なし脳室ドレナージ	術者として10例
シャント手術	術者として10例
開頭・閉頭手技	術者として10例、助手として30例
椎弓切除なし形成手技	術者または助手として3例
顕微鏡手術 (くも膜切開、腫瘍、血管の露出、血腫除去、ドリリング、吻合操作など)	術者として5例、助手として35例 (40例)

基本的手技の経験

手技	必須件数
脳腫瘍手術	20例
脳動脈瘤・AVM手術	10例
脳内血腫除去術	5例
頭蓋内外バイパス術・CEA	5例
頭部外傷の開頭術	5例
脊椎・脊髄手術	5例
15歳以下の小児手術	3例
微小脳血管減圧術(MVD)を除く機能系手術	3例
脳動脈瘤塞栓術	3例
頸部内頸動脈ステント留置術	3例
内視鏡手術	3例

個々の疾患の手術経験(術者または助手)

▶どこで研修するか? ~道内外教育関連病院での地域医療を担い、臨床能力を高める~

本プログラムは、基幹施設である札幌医科大学と複数の連携施設によって構成され、必要に応じて関連施設が加わります。当プログラムの構成は図で示すように、道内のみならず京都大学での研修も可能となっています。脳神経外科専門医の使命は、脳神経外科疾患の予防や診断、救急治療、手術および非手術的治療、あるいはリハビリ

テーションにおいて、総合的かつ専門的知識と診療技術を持ち、必要に応じて他の専門医への転送判断も的確に行うことで、国民の健康・福祉の増進に貢献することです。第一線の地域中核病院での研鑽を減らすことで、地域の実情を含めたこれらの総合的かつ専門的知識と診療技能を身につけることが可能です。



▶研究力を高める

後期研修中に大学院入学をすることで、2年間に渡って研究を行う事ができます。大学院において、神経科学、薬理学、再生医療などの脳神経外科に関わる様々な領域の基礎研究や臨床研究を行い、学位(医学博士)を取得する事が可能です。研究を通じて、脳神経外科の最前線となるサイエンスを発信していきます。

▶その他

脳神経外科の幅広い領域について、日々の症例、カンファレンスなどで学ぶ以外に、文献からの自己学習、生涯教育講習の受講、定期的な研究会、学会への参加などを通じて、常に最新の知識を吸収するようにします。また、大学院を通して基礎的研究や臨床研究

▶国内外への留学で臨床力や研究力を高める

脳神経外科専門医取得後は、個人の希望にて脳機能、脳血管障害、脳腫瘍、脊椎脊髄、小児などのサブスペシャリティ専門医・認定医の取得に重点を置いた研修を行います。また、道内外の

施設で専門性を高めることを目的とした国内留学も可能です。さらに、海外への留学を通じて、さらなる基礎研究の発展を目指すことも可能です。

に積極的に関与し、さらに自らも積極的に学会発表、論文発表を行い脳神経外科学の発展に寄与するようにしています。

もちろん、脳神経外科専門領域の知識、技能に限らず、医師としての基本的診療能力を研修カリキュラムに基づ

いて獲得する必要があります。院内・院外で開催される講習会などの受講により常に医療安全、院内感染対策、医療倫理、保険診療に関する最新の知識を習得し、日常診療において医療倫理的、社会的に正しい行いを行うように努めます。

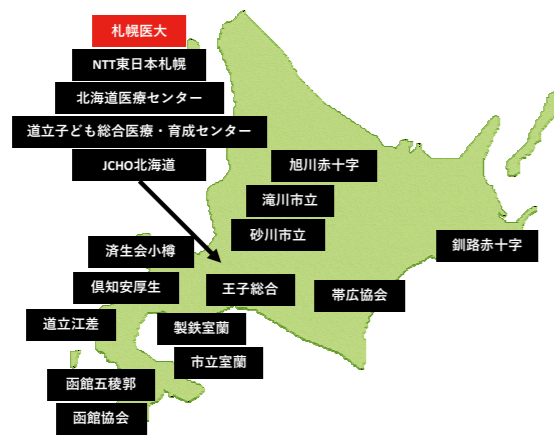
泌尿器科専門医 研修プログラム

▶札幌医科大学泌尿器科研修プログラムの特徴

札幌医科大学泌尿器科専門研修プログラムの研修施設は、研修基幹施設である札幌医科大学附属病院と、17の研修連携施設により構成されています。すべての施設において泌尿器科指導医が常勤しており、泌尿器科専門医に必要な

知識や技能の修得と同時に、地域医療との連携や他の専門医への紹介・転送の判断も的確に行える能力を身につけることができるよう配慮しました。札幌医科大学泌尿器科では、日常診療においてチーム制を採用しているため、

主治医制では陥りがちな思い込みや、経験が少ないことによる誤った治療選択が起こらないよう、指導医のもと、常に相談しやすい環境で研修を行うことができます。



研修環境
がん診療拠点病院：4施設
指導医数：41人
泌尿器腹腔鏡技術認定医：32人
排尿機能学会認定医：5人
腎移植認定医：2人
da Vinci：7台（6施設）
da Vinciプロクター：10人
手術症例数：4150件

▶札幌医科大学泌尿器科研修プログラムの概要

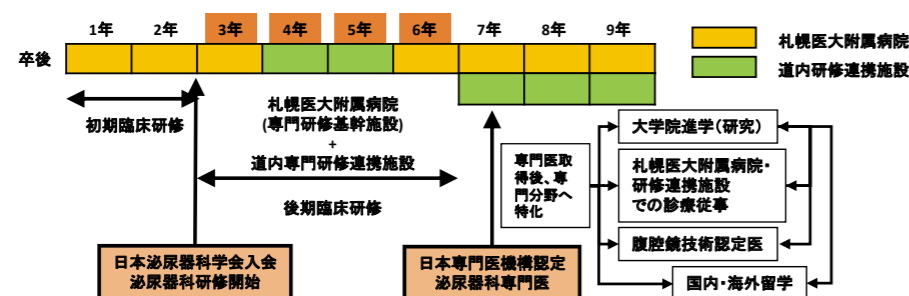
泌尿器科の専門研修は初期臨床研修終了後に開始され、4年間で育成されます。4年間のうち基本的には札幌医科大学附属病院で2年間の研修を行い、それ以外の2年間で研修連携施設で研修することになります。4年の専門

研修を終えた翌年に専門医試験を受け、卒業後7年目に専門医を取得することが可能となります。

専門研修の2-3年目は基本的には研修連携施設での研修となります。大学病院では経験しづらい一般的な泌尿器

科疾患の泌尿器科処置あるいは手術について重点的に学びます。本プログラムでは北海道立子ども総合医療・療育センターも研修連携施設となっており、希望者には半年間、小児泌尿器科領域を集中して研修する機会があります。

札幌医科大学泌尿器科研修プログラムの概要



▶専門医取得後の進路

専門医取得後は、専門分野について研究・診療を行い、サブスペシャリティを身につけていくことになります。

<当科における主な専門分野>

- ・泌尿器癌
- ・排尿障害
- ・腎移植
- ・GID（性同一性障害）
- ・性機能
- ・感染症
- ・内分泌・男性不妊症



泌尿器腹腔鏡技術認定医の取得、da Vinciを用いたロボット支援腹腔鏡手術手技の習得、高難度な手術手技の習得を目指します。

泌尿器腹腔鏡技術認定医
泌尿器専門医取得後、2年以上の腹腔鏡手術の修練
20例以上の経験
ビデオ審査

近年、泌尿器腹腔鏡技術認定医の取得は難しくなっています。大学を含めた11施設には技術指導を行える指導医がおり、また、指導医のいない施設でも、大学から指導医が出張し指導に当たるため、どの施設にいても技術認定に必要な指導を受けることが可能です。

▶大学院

札幌医科大学専門研修プログラムにおいて、大学院入学は、原則、専門医取得後となっております。これは、専門医取得程度の臨床経験を積み、標準的な知識と技術を習得することで、臨床上何がわかっていて、何が解明されていないのかを実際に感じ、その上で研究テーマとしてのclinical questionを持つことが大事であると考えからです。

▶留学

国内留学、海外留学、他大学の大学院で研究を行うなどのスタイルがあります。

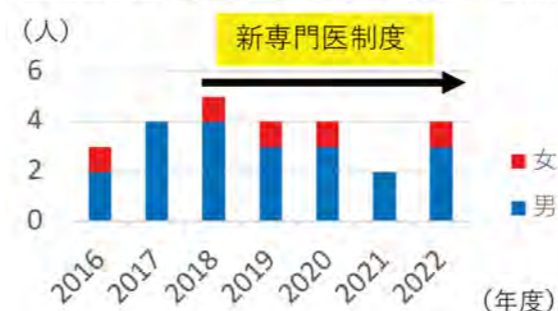
①国内留学

比較的最近では、京都大学、国立がんセンター、東京女子医科大学への留学実績があります。近年、宮崎大学と交換留学を行っております。また、大学院の研究を他大学で行うことも可能です。最近では、東京大学、北海道大学の大学院での博士号取得の実績があります。

②海外留学

大学院卒業後、さらなる研究テーマの追及のために海外へ留学することが可能です。最近では、アメリカ (Cleveland Clinic)、オーストラリア (Monash University) に留学実績があります。臨床研修の為、大学の国際交流事業を利用して、カナダ (Alberta) やフィンランド (Helsinki) への短期留学の実績があります。

当科の後期研修医および専攻医の動向



- ・2024年の必要医師数を達成するための年間養成数として、数年間は全国で毎年315名の泌尿器科医が必要と試算されています。
- ・一方、泌尿器科の専攻医登録人数の実績では2018年は274名、2019年は253名と、必要数から大きく不足しています。
- ・このように、若い皆さんが力を発揮できる世界が泌尿器科にはあります

耳鼻咽喉科専門医 研修プログラム

▶札幌医大耳鼻咽喉科専門研修プログラムの達成目標、特徴

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は聴覚・嗅覚・味覚の感覚器、呼吸機能、摂食・嚥下機能、音声言語機能と生活の質に直結する臓器を取り扱うエキスパートです。超高齢化社会をむかえる日本において、ニーズが高まっている医療分野となります。当教室では、「耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の幅広い疾患に高い診療レベルで対応できる」、「患者さんとそのご家族の

心情に寄り添い、全人的医療を提供できる」[チーム医療において、他の医療者から信頼される]「臨床・基礎研究で世界に発信できる」医師の育成を目標とし専攻医の指導に取り組んでいます。

耳鼻咽喉科専門医資格の取得には専門領域での研修が4年間必要となります。この期間、札幌医大耳鼻咽喉科専門研修プログラムでは大学病院や小児セン

ター、頭頸部癌専門施設において指導医のもと各領域に関連する基本的知識・技量を広くまた深く学びながら、一方で市中病院においてcommon diseaseの診療に携わり、それぞれで補完しあいより実践的な臨床力を身につけることができます。

▶札幌医大耳鼻咽喉科専門研修プログラムの概要

本プログラムでは、2つのコースを設定しています(図1)。

スタンダードコースでは、約2年間で札幌医大、残りを連携施設において研修を行います。いずれの施設においても病棟管理のみならず、術者として耳科、鼻科、頭頸部外科の基本的手術、また外来診療も行います。4年間の研修期間中に学会発表を3回以上、筆頭著者としての学術雑誌1編以上の論文執筆も行うプレゼンテーション能力も習得します。

アカデミックコースでは、将来大学教員として、あるいは中核病院の指導医として後進の指導にあたるため、学位取得も併せてめざす研修となります。初期臨床研修2年間終了した時点(Aコース)、または初期臨床研修1年目(Bコース)で大学院に入学します。4年間の研修期間中に約3年間は札幌医大に所属し、うち

2年前後を重点的に研究する期間としています。外来診療などで臨床能力を維持しつつ、病棟業務を軽減し研究に必要な時間を確保します。学内他教室ともタイアップしており、耳鼻咽喉科・頭頸部外

科領域の臨床・基礎研究を行い学位取得することが可能です。

尚、基幹施設と連携施設の年数や選択は本人の特性に合わせて適宜調整されます。

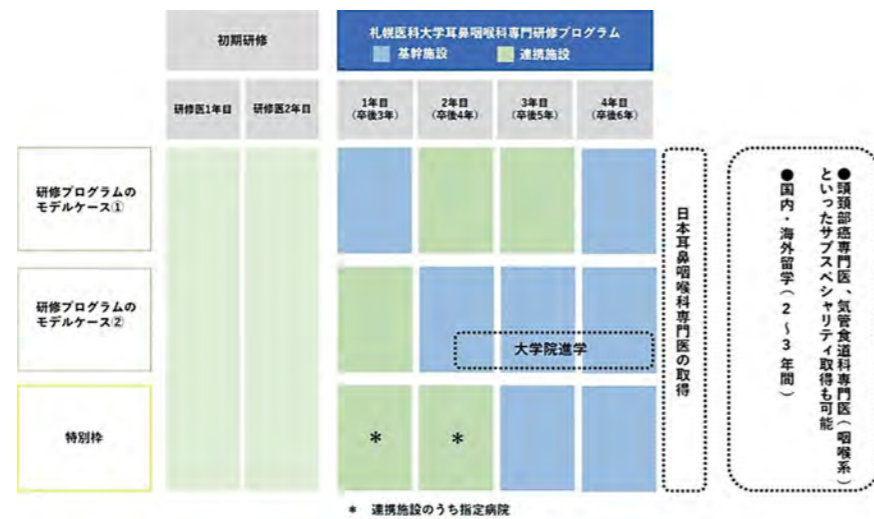


図1

▶札幌医大耳鼻咽喉科専門研修プログラムにおける研修施設

本プログラムの関連施設は、専門研修基幹施設である札幌医大と地域の中核病院として救急疾患を含む多彩な疾患を扱う施設、また札幌市内の小児疾患、頭頸部癌治療を専門とする施設など計14の研修施設があり、バランスよく幅広い症例を経験することができます(図2)。また各施設間で密接に連携しており、専門医資格取得のため過不足なく耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の基本的知識・手術手技を学ぶ場を提供します。札幌医大で週1回開催される抄読会や各領域における専門性の高い指導医による勉強会にも参加します。

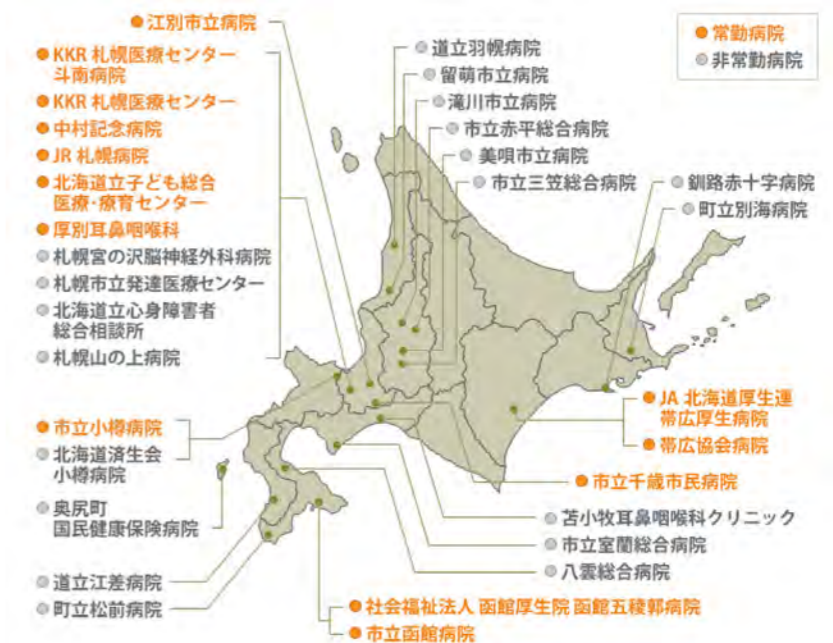


図2

▶専門医資格取得後のキャリア形成

耳鼻咽喉科専門医資格の取得後は、頭頸部癌専門医・気管食道専門医といったサブスペシャリティを高めたい、また小児耳鼻咽喉科領域の疾患を極めたいといった各個人の希望により癌研有明病院や成育医療センターなどで道外での研修も選択できます。学位取得後、さらに最新の医学研究を行い、世界にその成果を発信したい先生の海外留学も全面支援します。多彩な症例を経験でき、臨床から研究まで携わることのできる札幌医大耳鼻咽喉科専門研修プログラムで、耳鼻咽喉科医としてのキャリアをスタートさせましょう(図3)。



図3

眼科専門医 研修プログラム

▶札幌医大眼科専門研修プログラムの特色

70年以上の臨床と 研究に裏付けされた医療

当教室は昭和25年に開講し、70年以上の歴史ある眼科学教室である。

各分野に専門医を有する。

眼科における様々な分野の専門家を有し、偏りのない研修を行うことができる。

多彩な研修施設を有し、 地域医療にも貢献できる。

専門研修基幹施設と北海道内に広がる多くの関連施設がある。

抜群の症例経験数で

即戦力のある専門医を育成する。

専門研修基幹施設および専門研修連携施設において十分な外来症例、手術

件数を経験可能であり、到達目標を上回ることが可能である。研修終了時には基本的疾患の治療に関して独り立ちしていることが可能となったカリキュラムである。

▶札幌医大眼科専門研修プログラムの概要

当教室は専門研修基幹施設である札幌医科大学附属病院(札幌)のほかに北海道に広がる関連施設を有する。全て地方の中堅以上の中核病院である。これらの施設に当教室の医局員の医師が

派遣されている。この多彩な現場を活かし、専門研修基幹施設だけでは経験が不足しがちな初期の一般的な疾患や眼科救急医療、各地域特有の医療事情など幅広く研修を行える場を提供する。大

学附属病院での最先端の専門的診療経験と地域中核病院での即戦力となる臨床経験によって、眼科専門医を育てることが当プログラムの目指すところである。

学会認定施設	関連教育病院	診療科	指導医数(人)	うち専門医数(人)
○	NTT東日本札幌病院	眼科	2	2
○	江別市立病院	眼科	1	1
○	市立千歳市民病院	眼科	1	1
○	市立室蘭総合病院	眼科	3	2
○	苫小牧市立病院	眼科	2	2
○	岩見沢市立総合病院	眼科	3	2
○	札幌東徳洲会病院	眼科	2	1
○	JR札幌病院	眼科	2	2
○	天使病院	眼科	2	2
○	晴生会さっぽろ南病院	眼科	1	1
○	小樽市立病院	眼科	2	1
○	中村記念病院	眼科	2	2
○	伊達赤十字病院	眼科	1	1

学会認定施設：◎基幹教育施設 ○教育関連施設

眼科専門医(認定学会：日本眼科学会)	
資格要件	医師免許
	学会会員歴：4年以上
	眼科研修プログラム施行施設(基幹研修施設)において当初2年の間に行う1年以上の眼科臨床研修
	専門医制度研修施設(一般研修施設)において4年以上専門医制度規則施行細則第7条に定められた眼科臨床研修

▶学術面での指導体制

当教室では、眼科内に基礎研究が可能な研究室、実験室を有し、多くの大学院生が在籍している。大学院生を中心に基礎研究指導や国内外への留学、臨

床研究指導を行っている。また他大学と協力して多くの基礎研究や臨床研究を行っている。

取得できる専門医資格および技能(サブスペシャリティ領域を含む)

- ・日本眼科学会専門医
- ・神経眼科相談医

▶眼科紹介

当講座は網膜硝子体、緑内障、弱視斜視、神経眼科、ぶどう膜炎、角膜の各専門外来からなり、それぞれに第一線の臨床が行われている。

神経眼科外来では、視路疾患及び眼

球運動障害の治療及び画像診断、ならびに甲状腺眼症及び眼窩部腫瘍に対する外科的治療等を、また弱視斜視外来は斜視の長期予後、手術方法の検討、外眼筋の機械的特性の研究等を、緑内

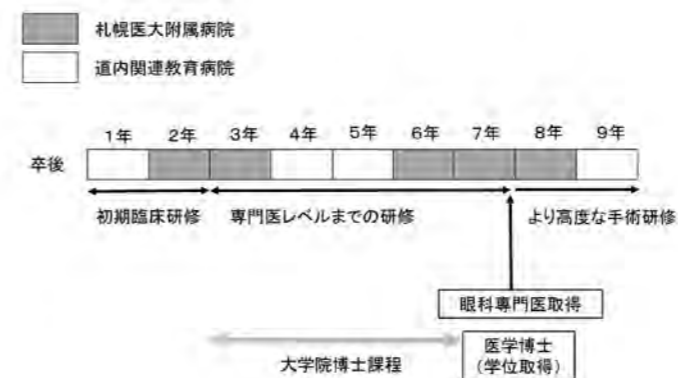
障外来は新しい診断、治療及び手術法の開発等を、網膜硝子体外来は網膜硝子体疾患の基礎臨床研究及び網膜剥離、硝子体手術等をそれぞれ行っている。

▶取得できる専門医資格および技能(サブスペシャリティ領域を含む)

日本眼科学会専門医、
神経眼科相談医

▶卒業後キャリア形成プログラム

【9年間の研修予定：モデルケース】



再生医療認定医、 脳卒中専門医プログラム

▶コースの概略

医学部附属フロンティア医学研究所 神経再生医療学部門は、幹細胞を用いた再生医療の基礎研究・臨床応用・実用化を目指すために設立された教室で、大学附属病院においては神経再生医療科を担当しています。

教室では、「脳梗塞や脊髄損傷に対する自己骨髄幹細胞移植治療」の臨床治験に関わる研究開発を行っており、プログラム期間中は、医師主導型治験

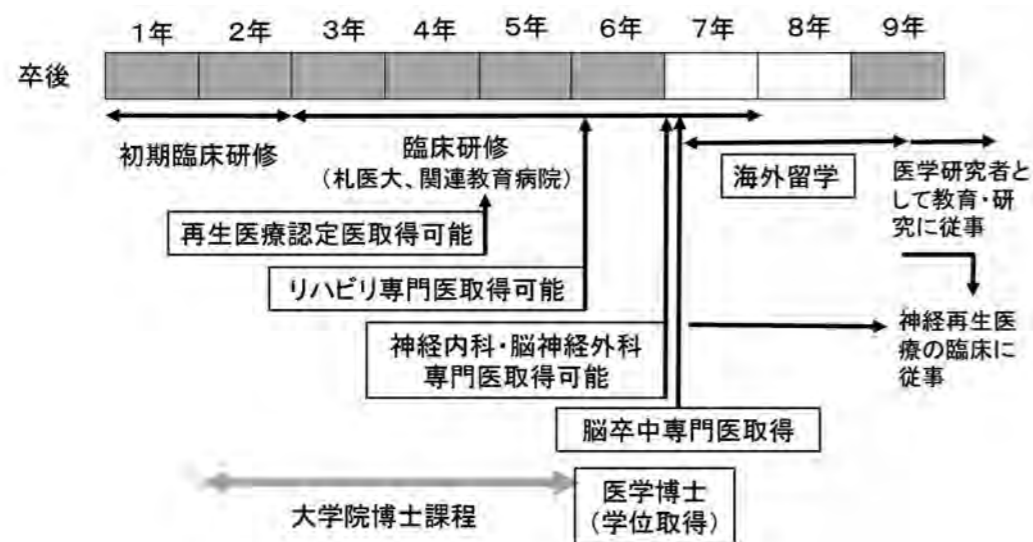
を含む全ての基礎・臨床研究に参加できます。さらに脳神経外科・神経内科・リハビリテーション科および学外研修病院と連携を取りながら、再生医療や脳卒中等に関係する神経疾患関連各科の研修を行うことが可能で、再生医療認定医・脳神経外科専門医・神経内科専門医・リハビリテーション専門医・脳卒中専門医・血管内治療専門医等の取得が可能です。

また、大学院医学研究科博士課程4年間を履修することによって学位(医学博士)を取得できます。これまで、研究論文は全て、神経科学領域の国際誌に掲載されています。

留学希望者に対しては、Yale University (米国)、George Washington University (米国)などに共同研究者がおり紹介が可能です。

▶卒業後キャリア形成プログラム

【9年間の研修予定：モデルケース】



▶学外指導体制

学会認定施設	関連教育病院	診療科	指導者数(人)	うち専門医数(人)
○	新さっぽろ脳神経外科病院	脳神経外科 神経内科 リハビリテーション科	10	10
○	札幌白石記念病院	脳神経外科 リハビリテーション科 循環器内科	9	9

▶専門医について

再生医療認定医 (認定学会：日本再生医療学会)	
資格要件 (概要)	医師免許
	学会会員歴：24ヶ月以上、会費の完納
	再生医療等に関する臨床・研究経験
	①再生医療等の治験等における症例経験、臨床経験3例以上
	②日本再生医療学会総会での筆頭演者
	③査読通過論文3報以上有し、1報以上の筆頭著者
過去24ヶ月間に1回以上、学会総会に参加	
過去24ヶ月間に1回以上、学会講習会に参加	
脳卒中専門医 (認定学会：日本脳卒中学会)	
資格要件 (概要)	医師免許
	認定内科医、小児科専門医、脳神経外科専門医、放射線専門医、救急科専門医、リハビリテーション専門医、のいずれかを有している
	学会会員歴：3年以上、会費の完納
	学会認定の研修施設で通算3年以上の研修
	脳卒中患者10症例のレポート
	日本脳卒中学会、日本脳卒中の外科学会、スパズムシンポジウムで、1回以上筆頭演者として発表
脳卒中に関する論文などが2編以上掲載されていること	

麻酔科専門医 研修プログラム



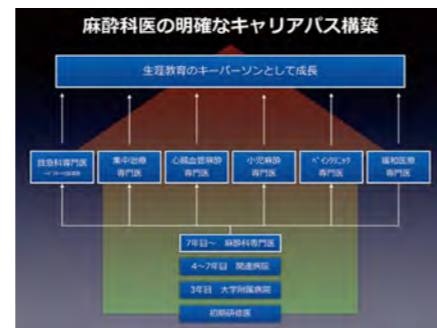
安全で質の高い麻酔科医療の提供、 世界に通用する麻酔科医の育成

▶ 札幌医大麻酔科麻酔科専門研修プログラムの特徴！

札幌医大麻酔科では、「安全で質の高い麻酔科医療を提供することによる社会貢献」「臨床および研究で世界に通用する麻酔科医の育成」を目標として日々取り組んでいます。

札幌医大麻酔科の最大の特徴は、上記目標を達成するために必要な症例数、専門研修施設と指導医数が豊富で、教

育体制が整っていることが挙げられます。明確なキャリアパス構築のためのシステムが確立しており(右図)、本教育体制に魅力を感じた麻酔科専攻医が全国から集まり、教室員の約半数は札幌医大以外の出身者で占められていることも大きな特徴の一つです。



▶ 札幌医大麻酔科専門研修プログラムの概要

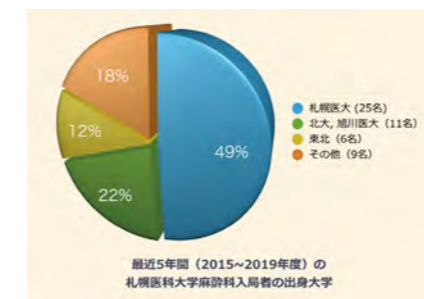
2年間の初期研修後、札幌医科大学附属病院および道内教育関連施設で、麻酔科専門研修を行います。

3年以上の専門研修プログラム修了後、麻酔科専門医試験に合格することで専門医資格を取得できます。

麻酔科専門医取得後、以下のサブスペシャリティ取得が可能です。

- ・救急専門医
- ・集中治療専門医
- ・ペインクリニック専門医
- ・緩和医療専門医
- ・心臓血管麻酔専門医

麻酔科専門医に留まらず、複数のサブスペシャリティ取得が可能である点が、本プログラムのもう一つの特徴です。



- 麻酔科専門医資格要件**
- 初期臨床研修後、満3年以上麻酔科専門プログラムを専攻して修了すること。
 - 600症例以上の麻酔科管理症例を経験すること(小児症例、帝王切開、心臓血管麻酔症例、呼吸器外科症例、脳神経外科症例は一定数以上の症例経験が必要)
 - 学会参加、学会発表、論文発表など所定の業績を有すること。
 - AHA-ACLSを受講し、修了すること。



▶ 具体的にどこで学ぶか? ~道内教育関連病院での地域医療を担い、臨床能力を高める~

本研修プログラムの関連施設は、地域医療の中核を担っており、専門医取得までの一定期間は様々な関連施設で研修を行い、診療の幅を広げることが目標としています。

地域における麻酔科医は、安全な手術麻酔と周術期管理に従事するのみならず、救急医療や集中治療管理など麻酔関連領域にも深く携わっており、急

性期医療の要としての役割を担っています。

このような地域中核病院(右図)での研鑽を経ることで地域医療の実情、およびニーズを学ぶだけでなく、手術麻酔と関連領域に関する幅広い知識と技量を身につけることが可能です。

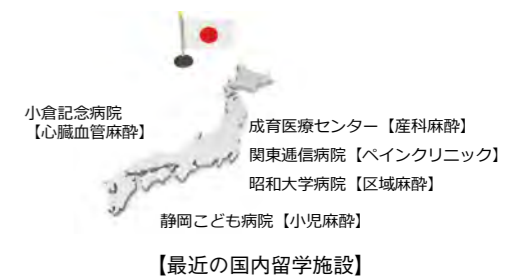
多様な医療に対応できる質の高い麻酔科専門医になることを目指します。



▶ Next Stageへ ~国内留学でさらに臨床力を高める~

麻酔科専門医取得後には、個人の希望に応じて救急・集中治療・心臓血管麻酔・小児麻酔・産科麻酔区域麻酔・ペインクリニック・緩和医療などのサブスペシャリティ取得に重点をおいた研修を行います。

救急・集中治療領域は札幌医大や関連施設で、一定期間専従することで専門医を取得します。また、道外施設で専門性を高めることを目的とした国内留学も可能です。

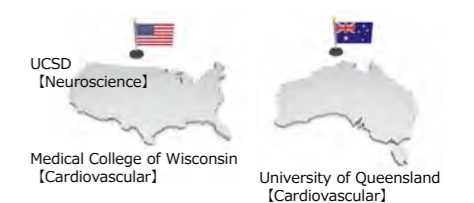


▶ 北海道から世界へ ~学位取得、海外留学、MDリサーチャーの道~

麻酔科専門医取得前後に、大学院において、薬理学、生理学、循環生理学、神経科学、血管生理学など麻酔科学が関わる様々な領域の基礎研究を行い、学位(医学博士)を取得することが可能です。学位取得後、さらなる研究の

発展を目指す医師は、海外留学で知見を深めます。

学位研究、海外での研究を通じて、北海道から世界へ向けて、麻酔科学のエビデンスを発信しています!



リハビリテーション科専門医 研修プログラム

▶リハビリテーション科専門医とは

運動障害、認知障害を横断的、総合的に診る専門家として、医療において重要な役割を果たしています。その業務は、疾病や障害の診断・評価・治療、リハビリテーションゴールの設定、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、義肢・

装具等の処方、運動に伴うリスクの管理、リハビリテーションチームの統括、関連診療科との連携など、多岐に渡っています。

診療の対象となる疾患・障害も幅広く、脳卒中、外傷性脳損傷、脊髄損傷、

骨関節疾患、関節リウマチ、切断、神経筋疾患、小児疾患、呼吸器疾患、心疾患、がんなどが含まれます。

(日本リハビリテーション医学会ホームページより)

▶札幌医科大学リハビリテーション科研修プログラムについて

北海道という広大な医療圏で適切なリハビリテーション医療を提供できるリハビリテーション科専門医の育成を目標としています。指導医は豊富な診療経験を持つだけでなく、それぞれが得意とする分野を持ち、専攻医の指導を多角的に行っています。

研修プログラムは研修基幹施設である札幌医科大学医学部リハビリテーション医学講座と専門研修プログラム

を形成する連携施設、関連施設の中をローテートし研修を行ってまいります。

連携施設・関連施設には知事が指定する道内医療機関が含まれており、先進研修連携枠での入学の専攻医でも専門医取得までの研修が可能です。

札幌医科大学の医学研究科博士課程には初期研修を終えた医師を迎え入れ地域で活躍する高度専門臨床医を要請する「臨床医学研究コース」があります。

本コースでは、地域医療が1年以上、2年以下の必須科目となっており、この間は本研修プログラムの一部の連携施設における研修を含めて博士課程に当てることができます。すなわち専門研修と博士課程の期間の部分的重複が可能です。そのため、学位取得までの期間を短縮できます。

▶専門医取得後の活躍の場

リハビリテーション科専門医は2021年12月の時点で、全国で2,760名の専門医が認定されています。

わが国の人口規模と高齢化の急速な進行を考慮すると、少なくともリハビリテーション科専門医は、4,000名必要と推計されており、リハビリテーション科専門医の育成は急務となっています。リハビリテーション科専門医がカバーする領域は保健・医療・福祉分野に到るため、その専門性と役割は他科と比べてきわめて幅が広いといえます。近年は

栄養学や再生医療、ロボット工学といった領域との連携にも注目が集まっています。専門医取得後は急性期病院のみにとどまらず、回復期、生活期まで関与することができ、各ライフステージにおいて特色ある活躍の場があります。

・急性期：早期のリハビリテーション治療を安全かつ確実に実施し、適切な機能評価と予後予測に基づいたゴール設定を行う。

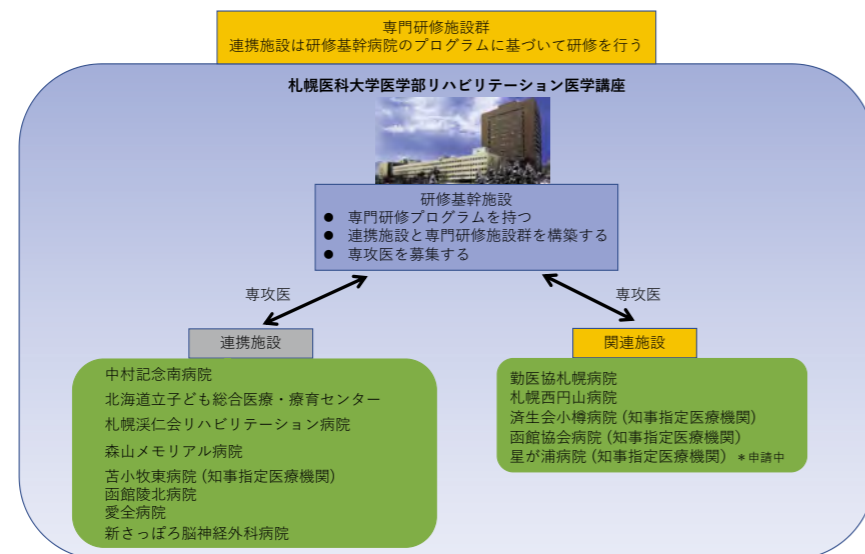
・回復期(回復期リハビリテーション病棟)：リハビリテーション治療を行い

ながら、主治医として内科的管理、在宅調整を中心に急性期と生活期をつなぐ橋渡しを行う。

・生活期(維持期)
・地域支援(地域リハビリテーション)：活動を維持・向上させることにより、家庭内や社会での役割を回復・増進させる。

リハビリテーション科研修プログラム
初期臨床研修終了前にリハビリテーション科専攻医になることを決め登録する
プログラムは基本的に3年間
半年以上(1年が望ましい)は回復期リハビリテーション病棟に勤務
3年間のプログラム終了後に専門医試験を受験する

リハビリテーション科専門医取得のための要件
日本リハビリテーション医学会が定める研修カリキュラムに基づいて知識や技量を段階的に習得
領域別に経験を義務付けられた100症例のリストと30症例のレポートの提出
日本リハビリテーション医学会年次学術集会・秋季学術集会・地方学術集会での発表を2回以上行う(2回のうち少なくとも1回は、日本リハビリテーション医学会年次学術集会または秋季学術集会)
以上をすべて満たした後に、口頭試問と筆記試験を受験し合格する



形成外科専門医 研修プログラム

形成外科は特定の臓器の病気を治療対象とする外科ではなく、全身のあらゆる部位の欠損や形態変化を治療対象としています。外傷や悪性腫瘍という生命にかかわる疾患はもちろん、先天異常、眼瞼下垂、乳房再建など、全身の多岐にわたる疾患が対象です。また、形成外科では創造的な手術が多いのが特徴であり、機能面はもちろん整容的な結果にも気を配り、患者のQOLの向上を目指さなくてはなりません。結果が直接目で見えるため、治療する我々にとってやりがいを感じるとともに手術の結果が重要になってきます。そのため、創傷管理から植皮、皮弁などの様々な手術手技の習得や、幅広い学術的・基礎的知識が必要です。優秀な形成外科医になるためには、手術件数や治療対象疾患を数多く扱っている施設で研鑽を積むのが近道です。



▶札幌医科大学形成外科専門研修プログラムの特徴

大学病院の中でも手術件数が多く、他科との連携手術も多数あるのが特徴です。また、高度救命救急センターが基幹災害拠点病院として機能しているため、外傷、熱傷の手術も多数行っており、研修初期から手術を行える機会が多くなっています。関連施設ではさらに数多くの外傷、炎症・変性疾患の経験を積むことが可能です。

専門領域の治療も多数行っており、全国から多数の受診をみる小耳症、眼瞼下垂や眼窩内腫瘍などのまぶたの疾患、GID（性同一性障害）などに対する高度な治療を経験できます。



▶札幌医科大学形成外科専門研修プログラムの概要

初期臨床研修終了後、大学で基本手技を習得し、その後大学および関連施設において経験を積み、4年間の専門研修プログラム終了後、形成外科専門医の取得を目指します。

専門医の取得には直接手術に関与した300症例(10症例以上の術者を含む)の経験、講習会への参加、1編以上の筆頭学術論文発表が必要です。また、

形成外科専門医取得後、以下のサブスペシャリティ取得が可能です。

- ・熱傷専門医
- ・頭蓋顎顔面外科専門医
- ・創傷外科専門医

大学院への進学を希望する場合、初期臨床研修終了後、札幌医大にて1年以上の臨床経験を積んだ上で、何年目からでも進学可能です。これまで創傷治

癒や組織移植に関する基礎研究にて学位を取得してきた実績があります。

また、留学に関しては臨床、基礎研究の両者で可能であり、これまでメルボルン大学(オーストラリア)、カリフォルニア大学サンフランシスコ校(米国)などへの派遣実績があります。臨床の専門性を高めるために、近畿大学、弘前大学などへの短期・長期国内留学も可能です。



総合診療科専門医 研修プログラム

▶コースの概略

(1)概要

地域医療総合医学講座(附属病院総合診療科)での研修では、専門医資格として卒後6年目に総合診療専門医が取得可能である。大学院は、卒後3年目から入学が可能である。

研究内容は、日常健康問題の研究、各種診断法における感度・特異度の検討、身体所見の妥当性の評価、費用効果分析、医療認知心理学の研究、健康と疾病に対する文化社会的反応や医療と社会文化的側面に関する研究、学生教育に関する研究等である。質的研究も重要視している。

臨床研修に関しては、十分な臨床経験を積み診療技術が習得できるよう、札幌医科大学附属病院と、北海道内各地に広がる関連教育施設で行われる。それぞれに特徴のある関連教育施設から選択することが可能であり、総合診療指導医及び教室員の指導のもとで充実した研修を行うことができる。

(2)目的

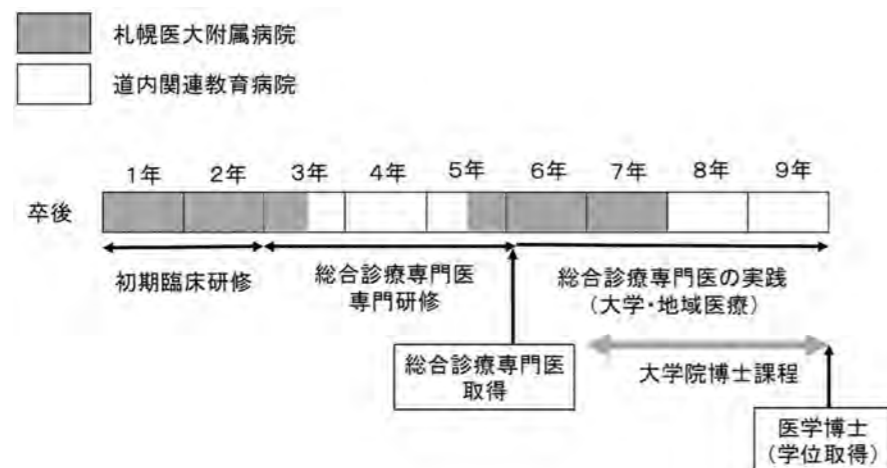
北海道の地域医療における多彩な問題を継続的に解決し、次世代へ引き継ぐことができる医師を養成する

(3)目標

- ・地域の多彩な疾患・患者関連の問題に対応できる力量を有すること。
- ・日常診療における疑問を解決できる能力を有すること。
- ・問題解決の過程を学会発表・論文を通して共有する能力を有すること
- ・後進の医師を指導できる能力を有すること。
- ・継続的な生涯学習を行うことができること。
- ・医師として長く働くことができるように自己管理ができること。

▶卒後キャリア形成プログラム

【9年間の研修予定：モデルケース】



▶学外指導体制

関連教育病院(研修病院)

表内のI、IIはそれぞれ総合診療専門研修I、総合診療専門研修IIの施設です

▶専門医について

合計3年間の研修が必要です

内訳

- ・総合診療専門研修I(診療所・小病院を想定) 半年以上必要
- ・総合診療専門研修II(病院総合内科を想定) 半年以上必要
- ・2施設合計で1年半以上が必要
- ・小児科 3ヶ月
- ・救急 3ヶ月
- ・内科 6ヶ月
- ・その他 3ヶ月

施設名	I	II	内	小	教
合田内科小児科医院	■				
医療法人社団豊生会東苗穂病院		■			
江別市立病院		■	■	■	■
オホーツク圏医療北見病院	■				
喜茂別町立クリニック	■				
動医協中央病院		■	■		■
動医協札幌病院		■			
黒松内町立国民健康保険黒松内診療所	■				
公立芽室病院		■			
国立病院機構旭川医療センター			■		
札幌徳洲会病院			■		
三意会ホームケアクリニックあづま	■				
市立網走総合病院			■		
市立千歳市民病院			■		
砂川市立病院		■	■	■	■
せたな町立国保病院	■				
総合病院伊達赤十字病院		■	■	■	
地域医療推進機構札幌北辰病院		■	■	■	
町立厚岸病院	■				
町立別海病院	■				
手稲家庭医療クリニック	■				
道南動医協函館後北病院	■				
名寄市立総合病院			■		
北海道社会事業協会富良野病院			■		
幌加内町立国民健康保険病院	■				
松前町立松前病院	■				
留萌市立病院			■		

※詳しくは当教室ホームページをご覧ください。

臨床検査専門医 研修プログラム

▶臨床検査専門医とは

臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療にかかせないものです。臨床検査の全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを

通して良質で安全な患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医です。本研修プログラムでの研修後に皆さんは、臨床検査の基礎医学的背景、方法論、臨床的意義を十分に理解し、それを元

に医師をはじめ他のメディカルスタッフと協力して適正な医療の実践に貢献することになります。

▶札幌医大附属病院検査部専門研修プログラムについて

本プログラムの目的は以下の5点にまとめられます。

- (1) 専攻医が臨床検査に関する知識、技能を習得すること。
- (2) 専攻医が臨床検査を通して診療に貢献すること。
- (3) 専攻医が臨床検査の研究法を習得すること。

- (4) 専攻医が医師として適切な態度と高い倫理性を備えることにより患者、メディカルスタッフに信頼され、プロフェッショナルとしての誇りを持つこと。
- (5) 臨床検査専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること。

本研修プログラムでは初期臨床研修終了後、3年間で臨床検査医学総論、

一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行います。

基幹施設である札幌医科大学附属病院で多くの研修を行います。希望者は連携施設である旭川医科大学病院での研修も行うことにより、深みのある研修となるように工夫しています。

研修計画(例)

年次	施設	研修内容	その他
1	札幌医科大学附属病院	臨床検査医学総論 臨床微生物学 遺伝子関連検査学 臨床生理学	研究テーマ決定 研究開始
2	札幌医科大学附属病院	臨床血液学 一般臨床検査学、臨床化学	
3	札幌医科大学附属病院 旭川医科大学病院	臨床免疫学・輸血学	研究まとめ

▶カリキュラム制研修について

臨床検査専門医を目指す者として、初期臨床研修後すぐに専攻医となるのはもちろんのこと、他領域で経験を積んだ後に当該専門領域のキャリアを踏まえて、より検査診断に特化した力量と資質の習得を目指すことも重要です。臨床検査をストレート研修した者と、様々な経験の後に研修した者、両者が横断性のある臨床検査専門医の集団を形成していくことが、臨床検査医

学の発展およびそれに基づく良質かつ安全な患者診療の提供に貢献します。

臨床経験豊富な他基本領域専門医取得者には、初期臨床研修終了後の専攻医と同じプログラム制の研修はそぐわないと考えられ、この場合はカリキュラム制の研修を行うことが可能となっています。また、初期臨床研修終了後に義務年限を有する場合や、特別な事情でプログラム制の研修が困難な場合

にもカリキュラム制研修を選択できます。

カリキュラム制の場合も、プログラム制と同様の到達目標を達成する必要があります。研修期間は3年またはそれ以上となります。到達目標を達成できるような週間、年間スケジュールを指導医と相談の上、業務との兼ね合いで設定することになります。

▶Subspecialty領域について

本研修プログラムで今後Subspecialtyとして想定される専門医には感染症専門医、超音波専門医などがありますが、現時点では決定されていません。



▶研修後について

研修終了後に専門医認定試験の受験資格が与えられ、試験合格により臨床検査専門医となります。臨床検査専門医には、さらに経験を積み大規模中規模施設の臨床検査部門を管理・運営すること、指導医となって現在は数少ない臨床検査専門医を育成すること、教育研究機関において臨床検査医学の教育研究を担うことが期待されます。



口腔外科専門医 研修プログラム

▶コースの概略

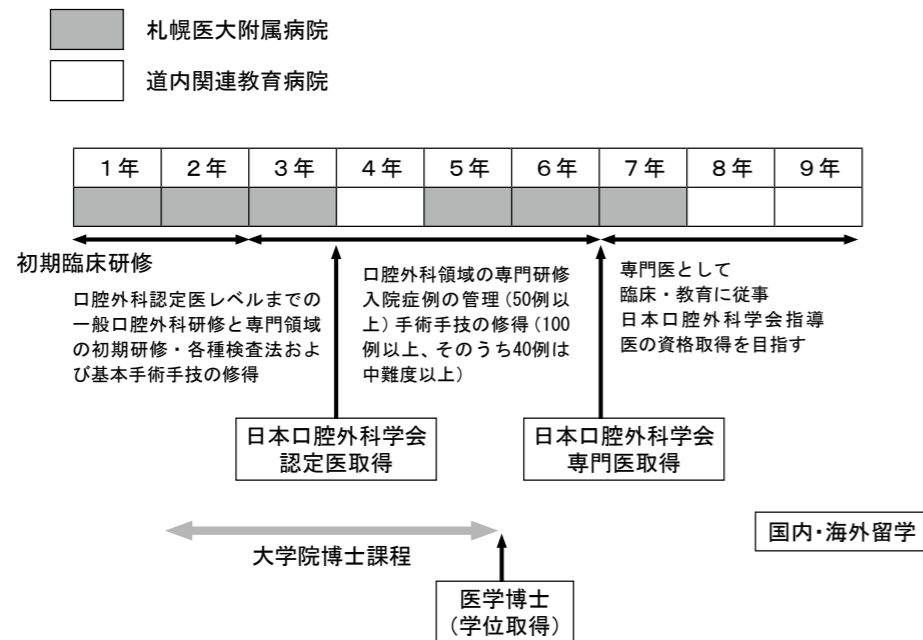
歯科口腔外科では、日本口腔外科学会専門医の取得が可能である。口腔外科専門医取得には、先行して口腔外科認定医の資格取得が取得要件であり、受験資格は日本口腔外科学会の会員

歴が最低3年間となっている。さらに認定医の資格を得たうえ、入会后6年を経過するまでの期間、専門医習得に必要な手術件数を経験する(100例以上)。専門医取得後は、当診療科で高難

度手術の術者の実績を積むとともに認定医の指導に当たり、入会后12年目以降の指導医取得の審査に備える。専門医取得後、留学の希望があれば相談に応じる。

▶卒業キャリア形成プログラム

【9年間の研修予定：モデルケース】



▶認定医の申請資格

【認定医の申請資格】

- ・日本国の歯科医師または医師免許証を有する
- ・免許登録後、3年以上継続して口腔外科学会会員であること
- ・初期臨床研修期間を含めて、学会認定の研修施設において通算3年以上の研修
- ・別に定める研修実績、診療実績

【認定医の審査】

- ・申請書類および試験(マークシート)
- ・日本口腔外科学会参加・発表、研修会参加、救命救急研修参加

【専門医の申請資格】

- ・日本国の歯科医師または医師免許証を有し、良識ある人格者
- ・免許登録後、6年以上継続して口腔外科学会会員であること
- ・本学会認定医資格取得者
- ・初期臨床研修期間を含めて、学会認定の研修施設において通算6年以上の口腔外科診療に従事
- ・別に定める研修実績、診療実績、論文業績

【専門医の審査】

- ・申請書類および試験(口頭試問、筆記試験、手術等の実地審査)

【指導医の申請資格】

- ・免許登録後、12年以上継続して口腔外科学会会員であること
- ・初期臨床研修期間を含めて、学会認定の研修施設において通算12年以上の口腔外科診療に従事
- ・本学会専門医取得後3年以上、口腔外科診療に従事
- ・別に定める診療実績☆、論文業績*

【指導医の審査】

- ・申請書類および面接、手術等の実地審査

病理専門医、死体解剖資格 研修プログラム

▶札幌医科大学病理学教室病理専門研修プログラムの特徴

札幌医科大学病理学教室は、病理学第一講座、病理学第二講座、病理診断学(札幌医科大学附属病院病理診断科)の三部門からなり、三部門合同で教室運営が行われる日本でも珍しい病理学教室です(図1)。札幌医科大学の建学の精神である『医学・医療の攻究と地域医療への貢献』のもと、本学病理学

教室では各講座がバリアフリーな環境を構築して教育、研究、医療を実践しています。専攻医は、基礎実験病理から外科病理診断まで幅の広い「病理学」を経験、修練することができ、多様な病理医と接しながら、広い視野から「病理医」としての生き方を選択することが可能です。その上で1人の専

攻医に対して複数の指導医が指導と評価を行い、専攻医の技能習得状況を客観的かつ正確に把握し、専攻医の能力に合わせた過不足のない業務負荷や指導を行います。本プログラムでは他科臨床医と協調しながら、診療の中核を担える人間性豊かな病理専門医を確実に育てることを目指します。

<連携施設群の分類>

基幹施設 (札幌医科大学附属病院)
専攻医は札幌医科大学病理学教室[病理学第一講座、病理学第二講座、病理診断学講座(札幌医科大学附属病院病理診断科)]に所属します。具体的には、病理診断科の診療医となるか、札幌医科大学病理学教室各講座の大学院に進学します。
連携施設 1 群
常勤の病理専門指導医と豊富な症例を有しており、十分な教育を行える施設です。専攻医は常勤医(または長期嘱託医)として連携施設に所属します。
連携施設 2 群
常勤の病理指導医や専任病理医があり、診断の指導が行える施設です。専攻医は非常勤医として、連携施設に出張します。
連携施設 3 群
病理医が必要に応じて出張し、診断や解剖、CPCが行われる施設です。専攻医は基幹病院または連携施設 1 群の指導医と共に業務を行います。

図1

▶病理専門研修プログラムの概要

2年間の初期研修の後、札幌医科大学附属病院、および北海道内外各地にあるプログラム連携施設群で病理専門

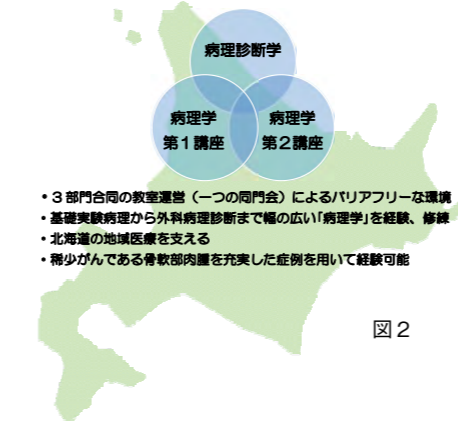
研修を行います。3年の専門研修プログラム終了後、病理専門医試験、細胞診専門医試験に合格することで病理専

門医資格や細胞診専門医資格の習得が可能です。

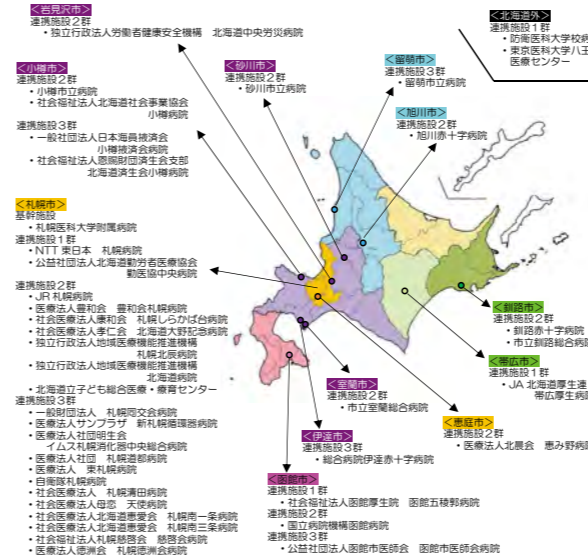
▶病理専門研修プログラムの実際

本プログラムでは教育連携施設群を基幹、1群、2群、3群と分類し(図2)、道内外の連携施設と提携して病理専門研修を行います(図3)。これにより、質量ともに充実した組織診断、細胞診断、剖検を経験することができ、病理専門医受験資格に必要な経験症例数を十分に満たすことが可能となります(図4)。

<札幌医科大学医学部病理学教室の特色>



<医療圏別連携施設一覧>



▶研修終了後の進路

研修終了後も基幹施設または連携施設(1群ないし2群)において病理診断研修が可能であり、研修期間中に不足した内容の習得が可能です。また、研修終了後に札幌医科大学医学部病理学教室の各大学院へ進学することが可能です(研修中の大学院進学も可能です)。札幌医科大学に在籍する場合には、研究や教育業務にも参加していただきます。それらを通じ、診療においてはサブスペシャリティ

領域の確立、研究の発展、あるいは指導者としての経験を積んでいただきます。その後は本人の能力や希望に合わせて、札幌医科大学病理学教室のスタッフ、連携施設(1群~3群)の専任病理医、さらには留学など、非常に幅の広い病理医としての進路が選択可能です(図5)。

病理専門医受験資格要件(経験すべき症例数)	
組織診症例数	5,000件以上
迅速診断	50件以上
細胞診症例数	1,000件以上(スクリーニング・陰性例を含む)
病理解剖主執刀症例数	主執刀30例以上
CPC	2件以上

図4



臨床遺伝専門医 研修プログラム

▶ コースの概略

臨床遺伝専門医資格は、一般社団法人日本専門医制評価・認定機構の定める基本的領域の学会の専門医（認定医）を持つ者が臨床遺伝学の研修を3年以上行い、認定研修施設に所属する指導医の指導を受けながら、遺伝カウンセリングを含む遺伝医療を実践すること

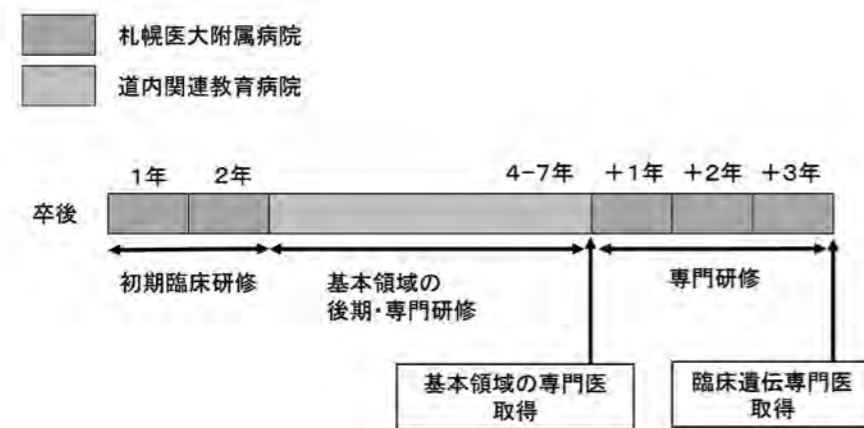
により、受験資格を得ることができます。本学附属病院臨床遺伝外来は、臨床遺伝専門医制度委員会に認定された研修施設としての研修体制を整備しています。

本学には小児科、産婦人科、内分泌内科、脳神経内科、消化器内科、皮膚

科、眼科、耳鼻咽喉科など多彩な基本的領域の専門医資格を有する臨床遺伝専門医が多数在籍しており、臨床遺伝学の幅広い分野に十分な臨床経験を積むことができます。また国内の臨床遺伝専門医制度認定研修施設において学外研修を行うこともできます。

▶ 卒後キャリア形成プログラム

【9年間の研修予定：モデルケース】



▶ 学外指導体制

基本的に学内で必要なすべての研修を行うことができますが、希望に応じ

て臨床遺伝専門医・指導医が在籍する他の研修施設での研修も可能です。

▶ 専門医について

臨床遺伝専門医（認定学会：日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会）	
資格要件	医師免許
	日本人類遺伝学会または日本遺伝カウンセリング学会の会員歴：3年以上
	一般社団法人日本専門医機構の定める基本的領域の学会の専門医（認定医）を取得
	学会認定の研修施設で満3年以上の研修 研修施設において、周産期・小児期・成人期において行われる遺伝医療領域の20例以上の症例を担当もしくは陪席



札幌医科大学附属病院 臨床研修・医師キャリア支援センター



住所 〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目

TEL 011-688-9486

FAX 011-621-8059

E-mail kenshu@sapmed.ac.jp

ホームページアドレス

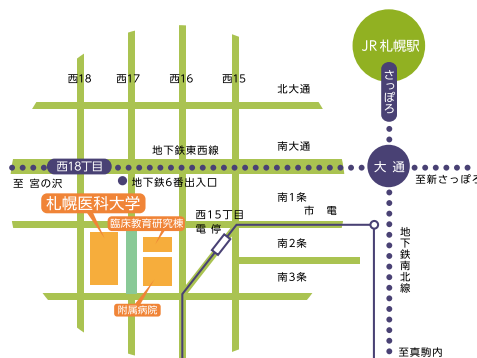
<http://web.sapmed.ac.jp/byoin/center/index.html>



アクセス



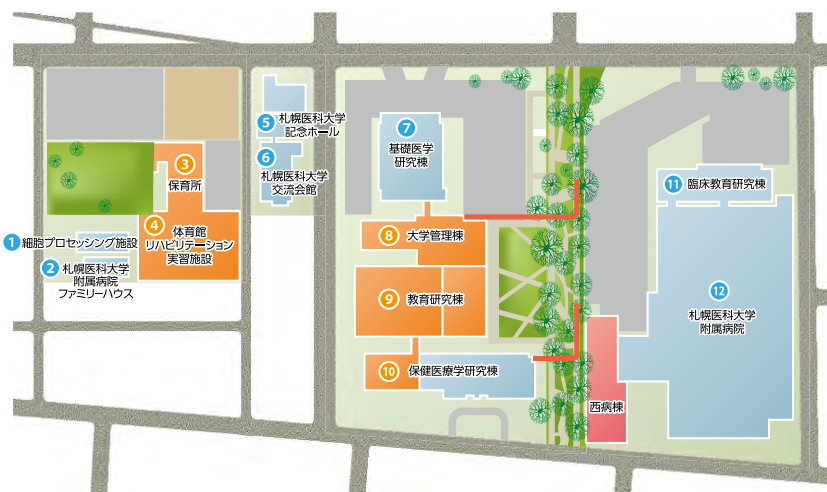
新千歳よりJR(快速)で37分
By Japan Railways (JR) (rapid train):
37 minutes from New Chitose Airport



access: ■地下鉄東西線「西18丁目」下車、6番出口徒歩5分
By subway, take the Tozai Line to Nishi juhatchome Station;
it is approximately a 5-minute walk to the university from Exit 6.
■市電「西15丁目」停留所徒歩5分
By streetcar, exit at the Nishi jugochoh stop; it is approximately
a 5-minute walk to the university.

施設整備後 (2022年度予定)

- 継続使用施設
- 新規整備施設(大学)
- 新規整備施設(病院)
- カバードウォーク



- | | | |
|--|---|--|
| 1 細胞プロセッシング施設
Cell Processing Center | 5 札幌医科大学記念ホール
Sapporo Medical University Memorial Hall | 9 教育研究棟
Education Research Building |
| 2 札幌医科大学附属病院ファミリーハウス
Sapporo Medical University Hospital Family House | 6 札幌医科大学交流会館
Sapporo Medical University Faculty and Student Hall | 10 保健医療学研究棟
School of Health Sciences Research Building |
| 3 保育所
Child Care Center | 7 基礎医学研究棟
Basic Medical Research Building | 11 臨床教育研究棟
Clinical Research Building |
| 4 体育館・リハビリテーション実習施設
Gymnasium/Rehabilitation Training Facility | 8 大学管理棟
Administration Building | 12 札幌医科大学附属病院
Sapporo Medical University Hospital |

